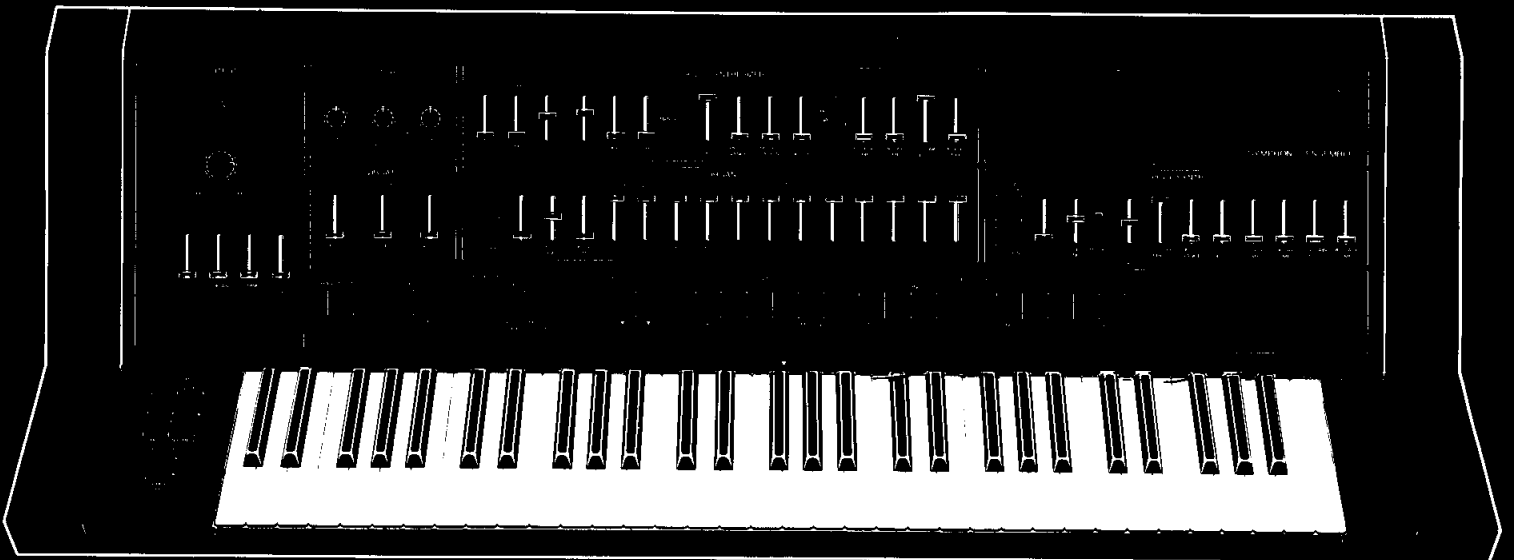


# YAMAHA

# SK30

SYMPHONIC ENSEMBLE

取扱説明書

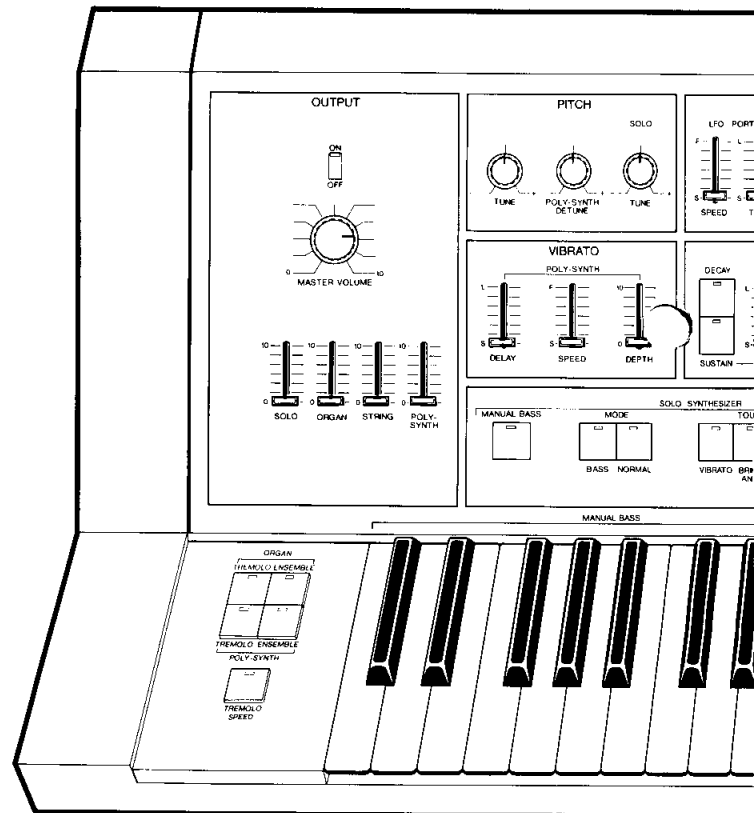


# 目次・ごあいさつ

このたびはヤマハシンフォニックアンサンブル **SK30** をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。**SK30** はオルガン、ポリシンス、ストリングスのポリフォニックキーボードに加え、タッチコントロールなど多彩な音づくりを楽しめるソロシンセサイザーパートを備えています。また、ソロシンセサイザーのベース演奏機能、豊富なオプション端子を持ち、ステージパフォーマンスを重視、一台でマルチキーボード演奏を可能にした設計です。

この取扱説明書をよくお読みいただき、**SK30** を正しく、未永くご愛用ください。

■ 目 次	ページ
ご使用の前に / 次のことにご注意ください	2
SK30 の機能と構成	3
接続のしかた 基本接続	5
オプション機器の接続等	6
操作のしかた OUTPUT	7
PITCH	8
ORGAN	9
POLY-SYNTH	11
VIBRATO	14
KEYBOARD SPLIT	14
SOLO SYNTHESIZER	15
TREMOLO / ENSEMBLE	20
ブロックダイアグラム	21
サウンドメモ	22
参考仕様	24
サービスについて	25



# ご使用前に / 次のことにご注意ください

## 設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当る場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 湿気やホコリの多い場所、温度の特に低い場所

## 電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずプラグをもって抜いてください。旅行などで長期間ご使用にならないときは、プラグをコンセントから外してください。

## 外装のお手入れは

お手入れのとき、外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアソールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。お手入れは必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

## 接続は充分注意して

5、6ページの接続のしかたをよく読み正しく接続してください。誤った接続をすると本機や接続した機器の故障の原因となることがあります。ご注意ください。

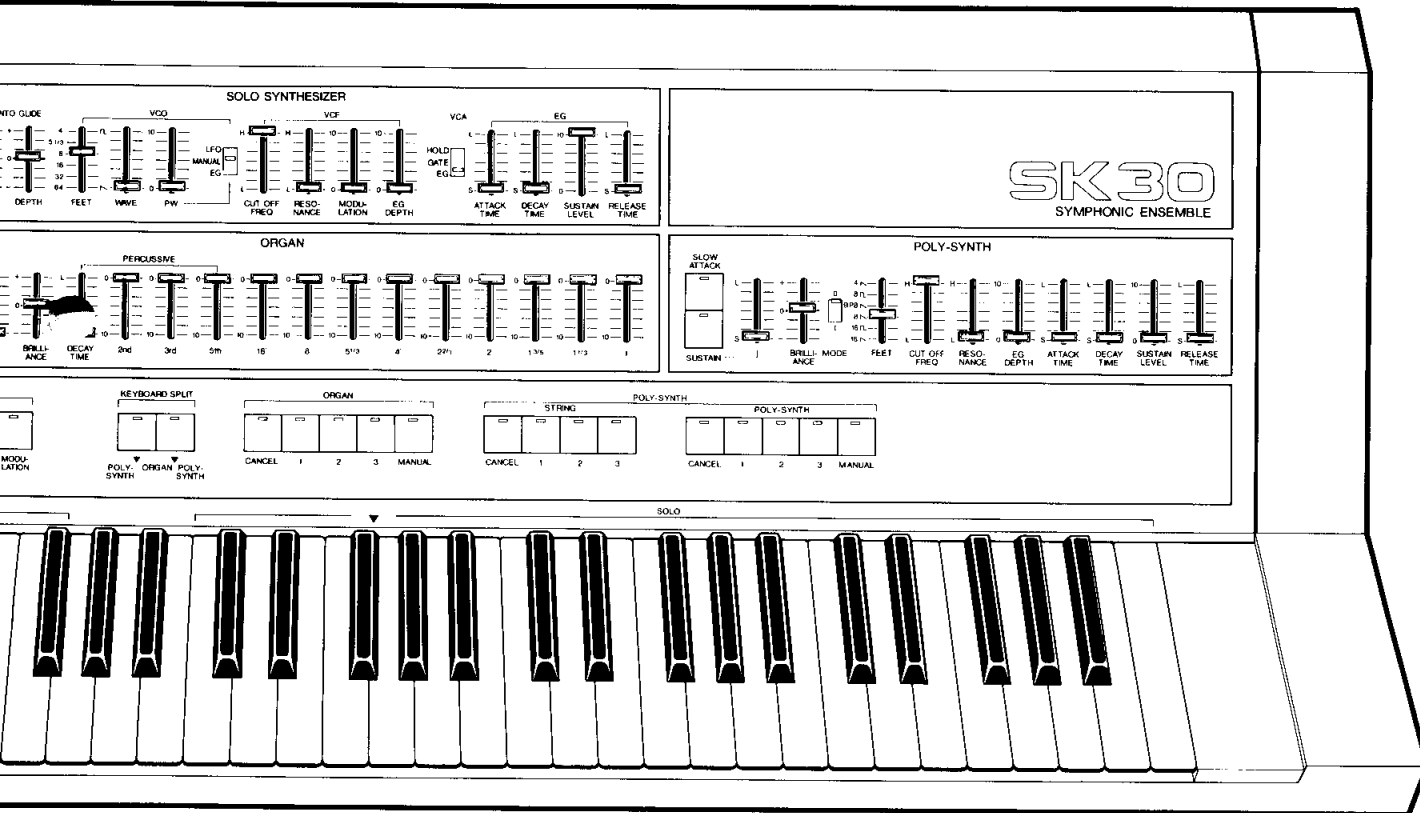
## 落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜きとってください。

■この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

## 他の電気機器への影響について

SK30はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時にご使用になりますと、雑音や誤動作の原因となることがあります。ラジオやテレビなどの電気機器から充分離してご使用ください。



# SK30 の機能と構成

SK30 はオルガン、ポリシンス、ソロシンセサイザーの各ブロックから構成されています。このうち、ポリシンスブロックは音色の異なるポリシンス、ストリングスパートを備えているため、オルガン、ソロシンセサイザーと併せて四つの音色パートをそれぞれ独立して、あるいは同時に演奏することができます。

## KEYBOARD / 音域と機能

SK30 は61鍵、5オクターブ (C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>) の発音域をカバーし、キーボードスプリットおよびマニュアルベース機能により、各パートに割り当てられる発音域を変えることができます。

オルガンおよびポリシンス (ストリングス) パートは通常モードで5オクターブをフルにカバーし、同時に7音までのポリフォニック演奏ができますが、キーボードスプリット機能を使用すると、中央の▼印を境に左右別々にオルガン、ポリシンス (ストリングス) のパートでそれぞれ7音 (合計14音) までのポリフォニック演奏が可能となります。

ソロシンセサイザーの発音域はノーマルモードで37鍵、3オクターブ (C<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>) となり、ベースモードではベースペダル (オプション) を接続してペダル演奏が可能です。さらにマニュアルベースモードにして、マニュアルベース音域 19 鍵、1½オクターブ (C<sub>1</sub>~F<sub>2</sub>#) によってソロシンセサイザーの演奏ができます。いずれのモードも高音優先で出力される単音シンセサイザーです。

## REAR PANEL

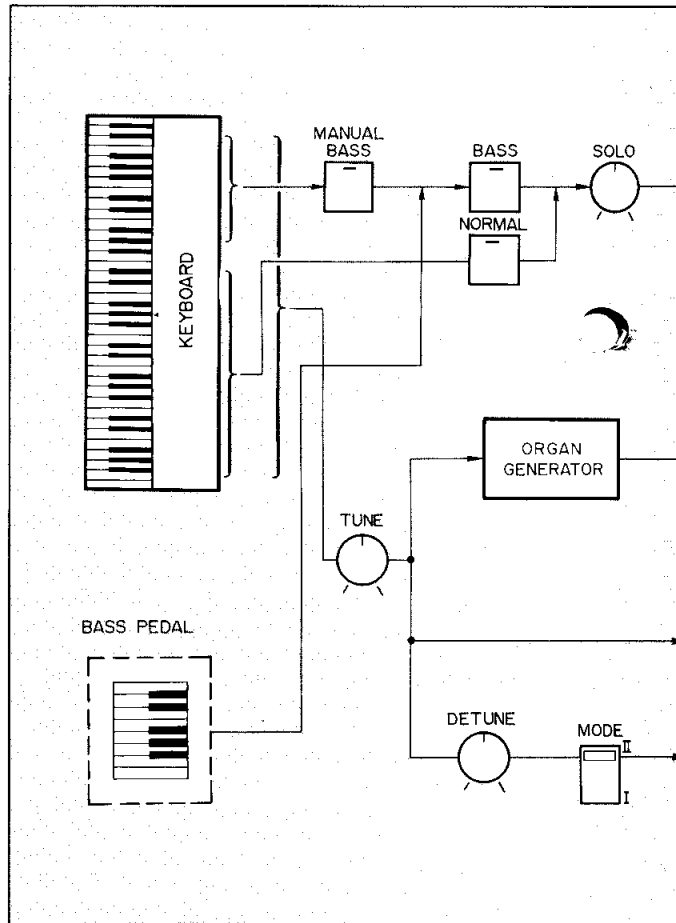
リアパネルには MIXED 出力のほか各パートが独自に出力されるスプリット出力端子、フットコントローラー、フットスイッチなどのコントロール端子、レスリースピーカーを接続する専用コネクタなど、多くの拡張用端子を備えています。

## ORGAN & POLY-SYNTH

オルガンとポリシンス / ストリングスパートは基本的な音色がセッティングされたプリセット音を持ち、ワンタッチでポリフォニック演奏を始めることができます。これらのプリセット音はパネルのコントロールによってさらに微妙に色づけすることも可能です。全てをパネルのコントロールで音づくりをするマニュアル音と併せてバラエティのあるサウンドが楽しめます。

オルガンとポリシンス / ストリングスは音色のつくられるプロセスの違いにより、それぞれの音色に本質的な違いがあります。

オルガンはドローバー式のトーンレバーにより倍音を加えていく (カブラー効果) 方法で音をつくり、鍵盤を押している間の音色の変化は得られません。これに対し



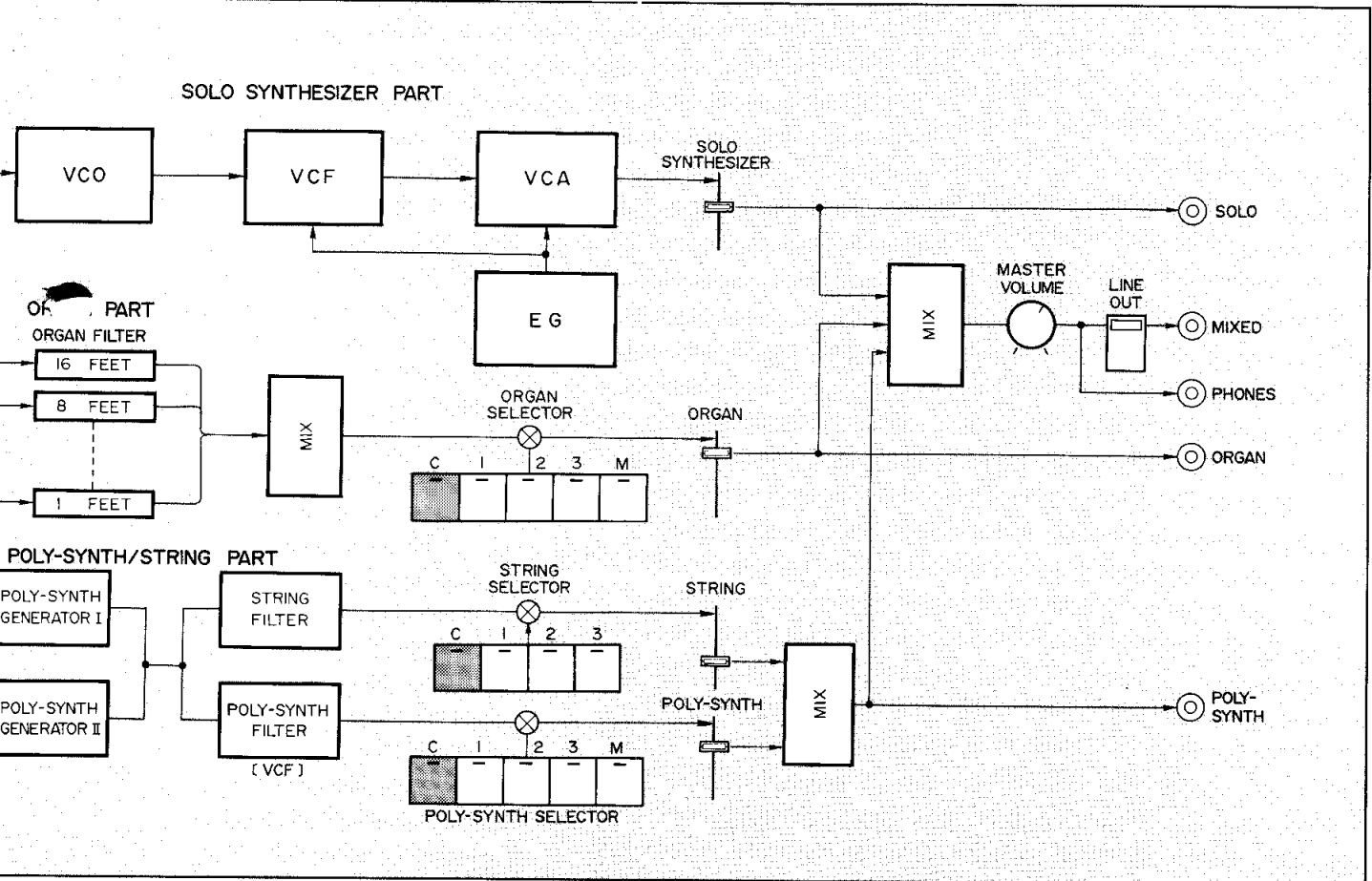
て、ポリシンシ/ストリングスは多くの倍音を持った波形からフィルターで倍音の一部を取り除くことでいろいろな音色をつくります。そしてこのときのフィルターの特性に対して時間的な変化をつけることができるため、鍵盤を押している間の音色を変化させることができます。

## SOLO SYNTHESIZER

音色だけでなく、音程や音量にも時間的な変化をつけ、独特のサウンドを自在につくるのがソロシンセサイザーパートの役割です。ソロシンセサイザーはVCO, VCF, VCA およびEGと呼ばれる部分から構成されており、音の性格を特徴づける音程、音色、音量の三つの要素が全て電圧値の違いで制御されるため時間的な変化をつけることが容易です。これがソロ(単音、高音優先)シンセサイザーの特徴です。

SK30はそれぞれに特徴を持つオルガン、ポリシンシ(ストリングス)およびソロシンセサイザーのキーボード楽器を同時に、または単独で演奏することができる、いわばマルチキーボードです。それぞれのパートの持つ特徴、違いを考えて操作し演奏することがSK30を理解し、生かす早道です。

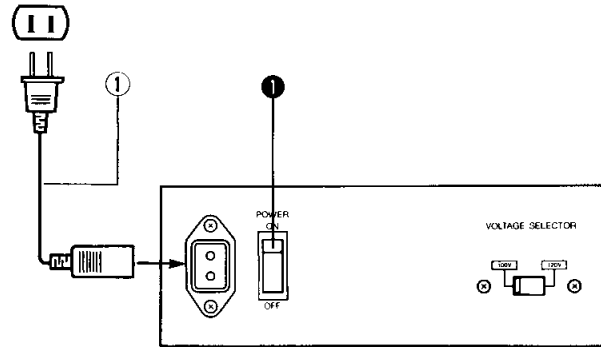
SK30の操作を正しく、より早くご理解いただくため、実際に音を出して確かめながら本書をお読みください。



SK30にはパワーアンプは内蔵されていません。このため、ヘッドホンだけを使用するときを除き、キーボードアンプなどのパワーアンプ、スピーカーを使用することが必要です。

### ■電源の接続

コンセント



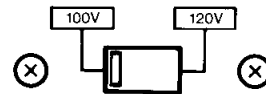
#### ①電源コード

プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

#### ●VOLTAGE SELECTOR 電圧切り換えスイッチ

電圧切り換えスイッチは工場出荷時にAC100Vにセットされています。スイッチが図のようになっていることを確認し、スイッチには触れないでください。

VOLTAGE SELECTOR



### ■アンプ/スピーカーの接続

#### OUTPUT ブロック

出力レベルは-10dBm/600Ωで一般的なキーボードアンプの入力レベルに適合します。

#### ②MIXED ミックス出力

一系統（またはモノラル）のアンプ、スピーカーをご使用になるときに接続する端子です。オルガン、ポリシンセ及びソロシンセサイザーのミックスされた音が出され、パネルのOUTPUT部のMASTERボリュームにより全体の音量をコントロールすることができます。

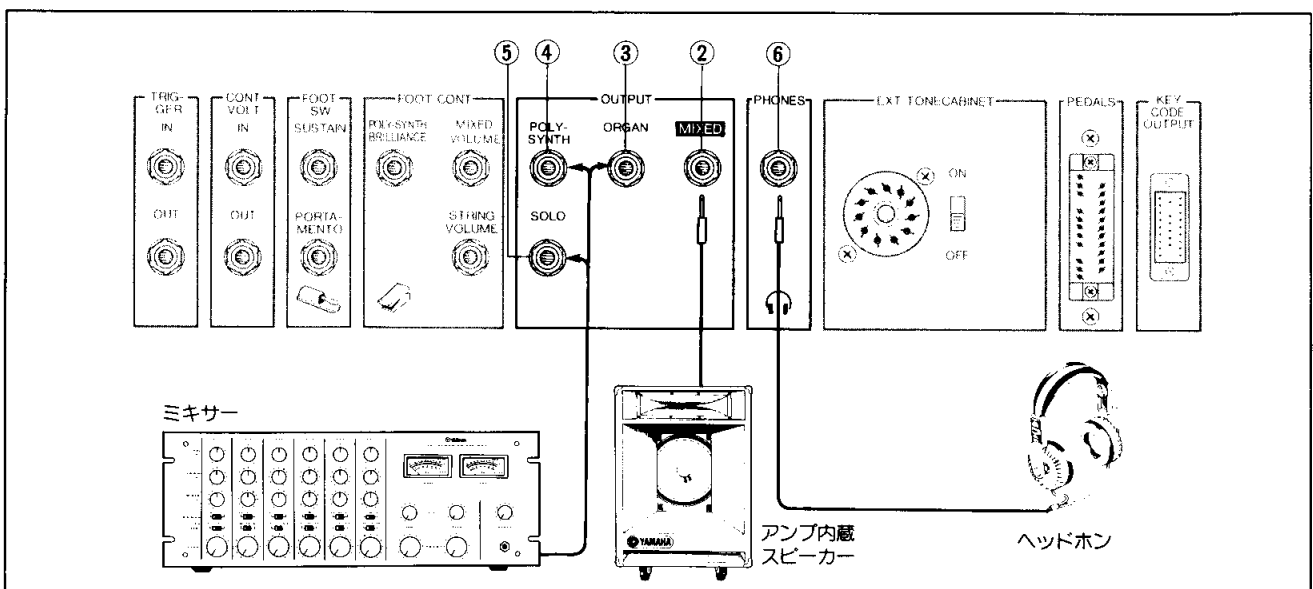
#### ③,④,⑤スプリット出力

ミキサーや多系統のアンプ、スピーカーを使用するときの出力端子です。オルガン、ポリシンセ（ストリングス）及びソロシンセサイザーの出力をそれぞれ別々に出力することができます。

これらの出力はMASTERボリュームによっては変化せず、それぞれの音量レバーによって変化します。

#### ⑥PHONES ヘッドホン出力

ヘッドホンを接続します。MIXED出力と同じミックスされた音が出されます。



オプション端子としてベースペダル (BP2)、フットコントローラーなど (FC-3A,4) の接続端子および他のヤマハシンセサイザーとデータの受け渡しをする入出力端子があり、SK30の演奏性をより向上、拡大することができます。

### ■オプション端子の接続

#### ⑦KEY CODE キーコード出力端子

鍵盤の音程を示すコードデータを、KEY CODE 入力端子を持つ楽器に出力する端子です。

#### ⑧PEDALS ベースペダル接続端子

ベース演奏をするためのベースペダル (BP2) を接続する端子です。

#### ⑨EXT TONECABINET トーンキャビネット接続端子

レスリースピーカー (モジュール#715, #815など) を接続する11p端子と出力スイッチです。この端子にレスリースピーカーを接続すると、SK30のパネル操作でレスリースピーカーのトレモロのON/OFF及びスピードをコントロールすることができます。詳しくは TREMOLO/ENSEMBLE の項をご参照ください。

- レスリースピーカーを使用せず、SK30のトレモロを使用するときはこのスイッチをOFFにしてください。

#### FOOT CONT フットコントローラー接続端子

##### ⑩MIXED VOLUME

フットコントローラーを接続し、ミックスド出力端子の音程をコントロールすることができます。

##### ⑪STRING VOLUME

ストリングスの音程だけを単独にコントロールすることができます。

##### ⑫POLY-SYNTH BRILLIANCE

ポリシンシスのブリリアンス (音色) がコントロールで

きます。

#### FOOT SW フットスイッチ接続端子

##### ⑬SUSTAIN

フットスイッチを接続してオルガン及びポリシンシスのリステーン効果のON/OFFができます。

- フットスイッチによるサステーンの働きはパネルのSUSTAINスイッチ⑩、⑪と同じです。フットスイッチを使用してサステーンのON/OFFを行なうときはパネルのSUSTAINスイッチはONにしておきます。なお、サステーンの長さはSUSTAINレバー⑪、⑫のセッティングにより決まります。

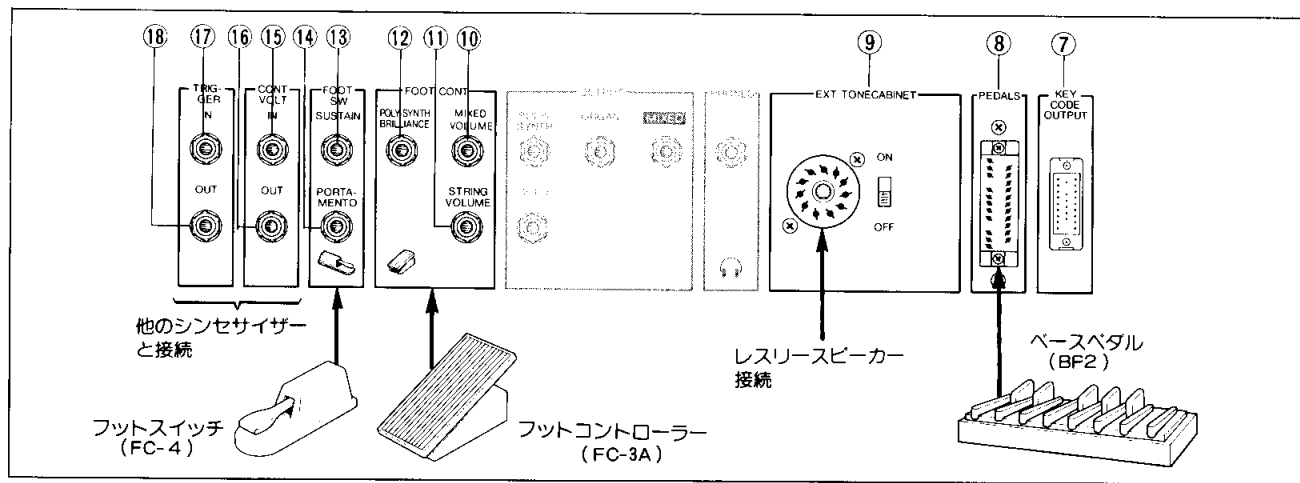
##### ⑭PORTAMENTO ポルタメント

ソロシンセサイザーのポルタメント効果のON/OFFができます。ポルタメントの長さは、PORTAMENTOレバー⑭で調節します。PORTAMENTOレバーがS側いっぱいのはときは、フットスイッチをONしてもポルタメント効果は得られません。

##### ⑮、⑯ CONTROL VOLT IN/OUT

##### ⑰、⑱ TRIGGER IN/OUT

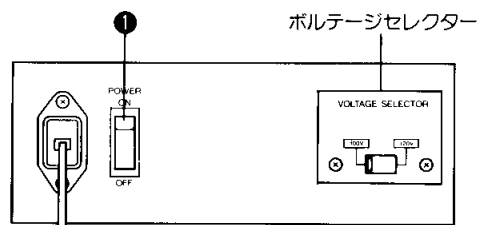
これらの端子はSK30のソロシンセサイザーブロックと、同様の端子を持つヤマハシンセサイザーCSシリーズとの間でVCO, VCF, VCA (EG)をコントロールする制御電圧及び鍵盤のON/OFFを示すトリガー信号の受け渡しをするための入出力端子です。詳しくは接続するシンセサイザーの取扱説明書をご参照ください。



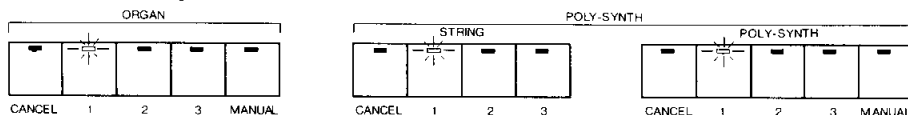
接続が終わったら、もう一度誤りがないかどうかチェックしてください。誤った接続のまま通電すると **SK30** や接続したパワーアンプ、スピーカーなどの故障の原因となることがあります。次にブロックごとに説明していきます。**MIXED** 出力端子にパワーアンプ、スピーカーを接続し、実際に音を出して各コントロールの働きを確認してください。

## ①POWER 電源スイッチ

電源スイッチは背面の電源コードのとなりにあります。このスイッチの上側を押すと電源が入り、プリセットトーンの**ORGAN1**、**STRING1**及び**POLY-SYNTH 1**が自動的にセットされ、そのインジケーターが点灯します。

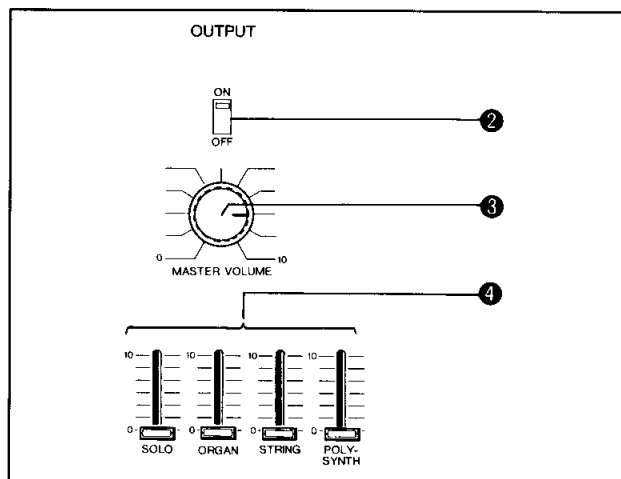


●電圧切り換えスイッチは、図に示すように **100V** にセッティングされています。スイッチには触れないようにしてください。



## OUTPUT ブロック

この状態で**OUTPUT**ブロックをコントロールすると、オルガン、ポリシンセ及びストリングスのプリセット音を演奏することができます。ソロシンセサイザーパートは演奏に先だち各コントロールのセッティングが必要です。



## ②LINE OUT ラインアウトスイッチ

**MIXED**、**EXT TONECABINET** 端子の出力をON / OFF します。スプリット出力及びヘッドホンはスイッチのON / OFF と無関係に出力されます。

## ③MASTER VOLUME マスターボリューム

**MIXED** 出力、ヘッドホンの音量をこのボリュームで調節します。

●**EXT TONECABINET** 端子に出力する音量も、マスターボリュームにより調節します。

## ④SOLO, ORGAN, STRING & POLY-SYNTH スプリットボリューム

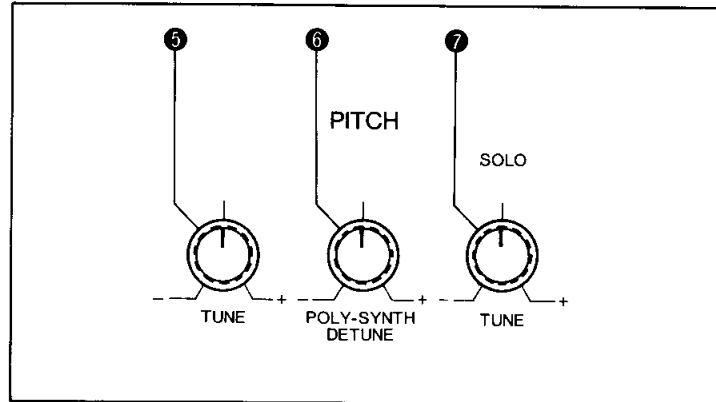
ソロシンセサイザー、オルガン、ストリングス及びポリシンセパートのレベルをそれぞれ独立してコントロールできます。それぞれの音量の割合をこれらのレバーで調節します。

スプリットボリュームを上げると、初期設定によりインジケーターの点灯している **ORGAN1**、**STRING1** 及び **POLY-SYNTH 1** のプリセット音を演奏することができます。これらのスイッチを押せば他のプリセット音も演奏することができます。**CANCEL** を押すと、スプリットボリュームを上げても音は出力されません。

●ソロシンセサイザーパートは各コントロールを次頁の「基本セッティング」のとおりセットすると、音を出して演奏することができます。



各パートのピッチを合わせるチューニングブロックです。



## ⑤ TUNE チューン

オルガン及びポリシンス（ストリングス）パートの基本ピッチを合わせます。

●デチューン（ハーモニー）効果はポリシンス（ストリングス）パートだけを単独で演奏したときにもつくることができます。

## ⑥ POLY-SYNTH DETUNE デチューン

ポリシンス（ストリングス）パートのデチューンつまみです。ポリシンス（ストリングス）パートでデチューン（ハーモニー）をつくる時に使用します。

●POLY-SYNTH DETUNEつまみは、POLY-SYNTHパートのMODEスイッチがII側のとき働き、I側にしたときは動作しません。

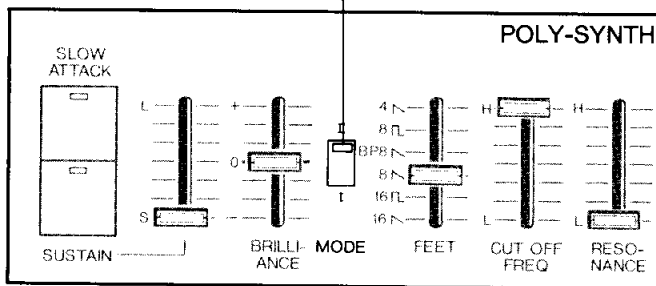
## ⑦ SOLO TUNE ソロチューン

ソロシンセサイザーパートのピッチを合わせます。

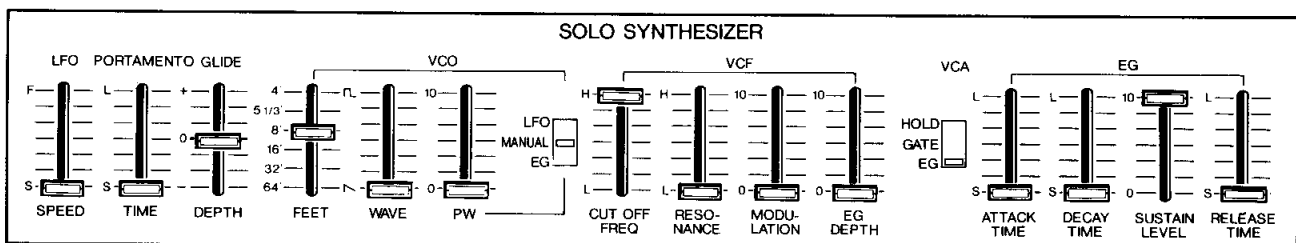
TUNEつまみ⑤ではソロシンセサイザーパートのピッチは変化しません。

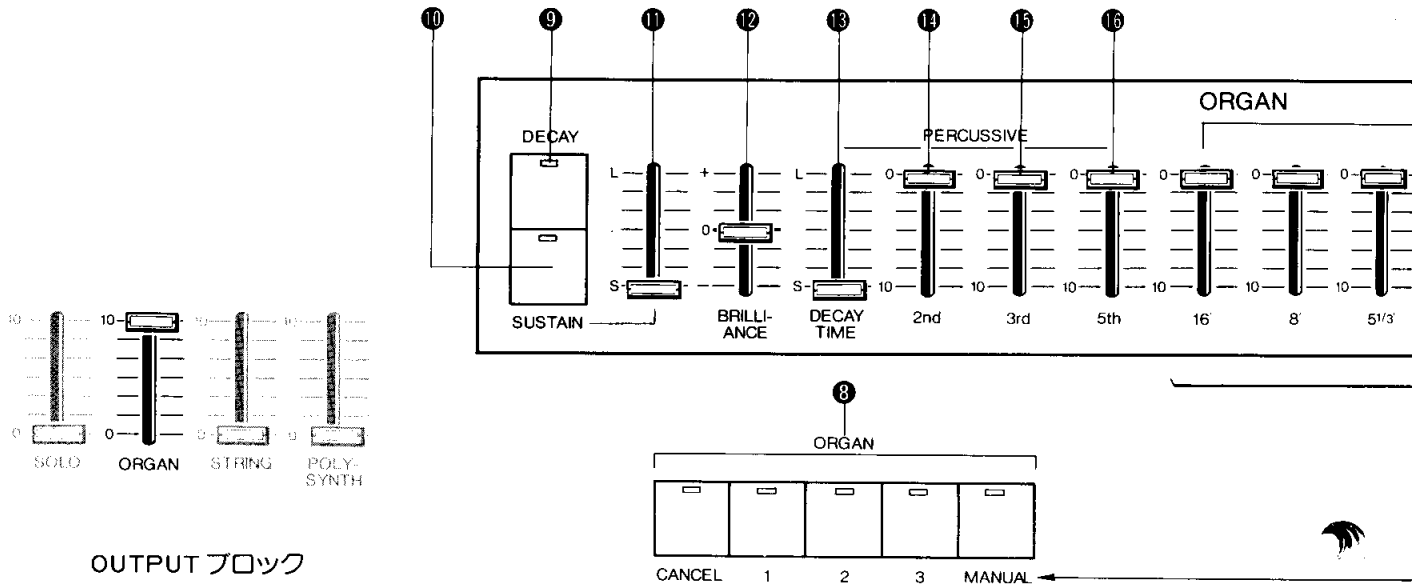
●ソロシンセサイザーはMODEスイッチのNORMALボタンを押し、パネルのコントロールを下図「基本セッティング」のとおりセットすると音を出すことができます。

モードスイッチ



## ソロシンセサイザー基本セッティング





音色がすでにプリセットされた**ORGAN1~3**とマニュアルコントロールにより音色を自由にセットできる**MANUAL**とがあり、電源 ON 時は**ORGAN 1**に初期設定されます。プリセット音はトーンレバーの働きに相当する回路が内部的に設定されているもので、ハネル部の**DECAY**、**SUSTAIN**スイッチ、**BRILLIANCE**レバーなどのコントロールはプリセット音に対しても働きます。

## ⑧ ORGAN オルガンセレクトスイッチ

オルガンの音色を選ぶスイッチです。**ORGAN 1~3**はプリセット音で、ハネルのトーンレバーで音色をつくるときは**MANUAL**を押します。**CANCEL**を押すとオルガンの音は全て遮断されます。

スイッチをもう一度押すと **OFF** になります。

## ⑩ SUSTAIN サスティーンスイッチ

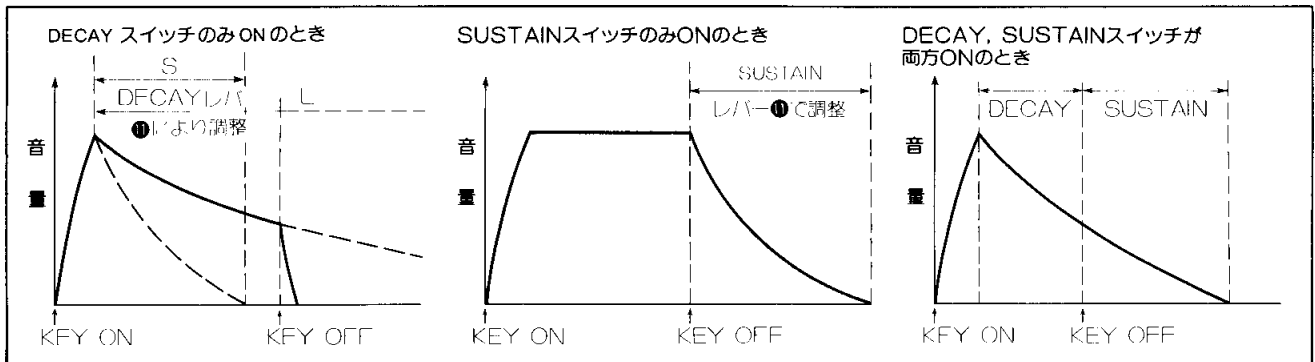
**SUSTAIN** スイッチを押して **ON** にすると、離鍵後、音量が徐々に小さくなるサスティーン音になります。余韻の長さはレバー**⑪**でコントロールします。スイッチをもう一度押すと **OFF** になります。

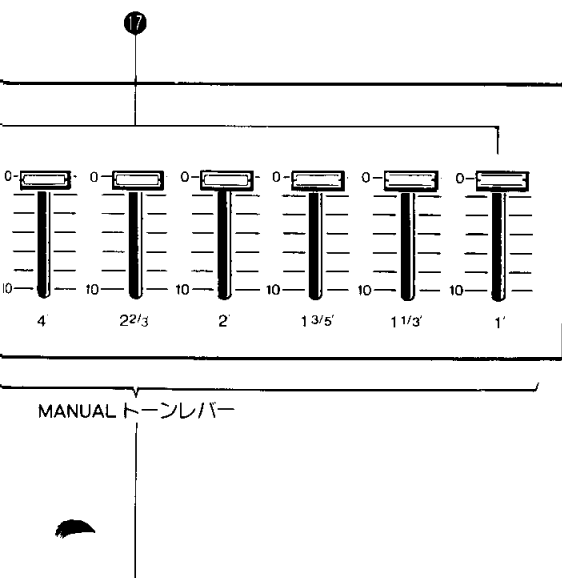
## ⑨ DECAY ディケイスイッチ

**DECAY** スイッチを押して **ON** にすると、打楽器のような減衰音になります。音量は打鍵直後に最大になり、その後音量は鍵盤を押している間、徐々に小さくなります。減衰中に鍵盤を離すと音は消えます。減衰のしかたはレバー**⑪**によりコントロールします。

● **DECAY** スイッチ**⑨**と **SUSTAIN** スイッチ**⑩**を両方 **ON** にした場合、打鍵後、離鍵にかかわらず音量は減衰しつづけます。

## DECAY と SUSTAIN





**⑪ DECA Y, SUSTAIN** ティケイ, サスティーンレバー  
 DECA YおよびSUSTAINの長さをコントロールするレバーです。レバーをL側に上げるほどDECA Y, SUSTAINの時間が長くなり、ゆるやかな減衰音および余韻が得られます。

● DECA Y, SUSTAIN スイッチが OFF のときこのレバーは動作しません。

**⑫ BRILLIANCE** ブリリアンスレバー  
 音色を調節します。レバーを+側にするほど音色は明るくなり、-側にするとソフトな音色になります。

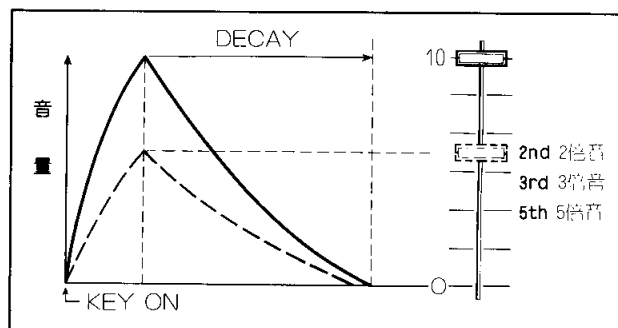
● ふつうは0 (中央: クリックストップ位置) にしておき、曲のふん開気や好みにより音色を一時的に明るくしたいときやソフトにしたいときなどに使用すると便利です。

## PERCUSSIVE パーカッシブ

**⑬ DECA Y TIME, ⑭, ⑮, ⑯ 2nd, 3rd, 5th**

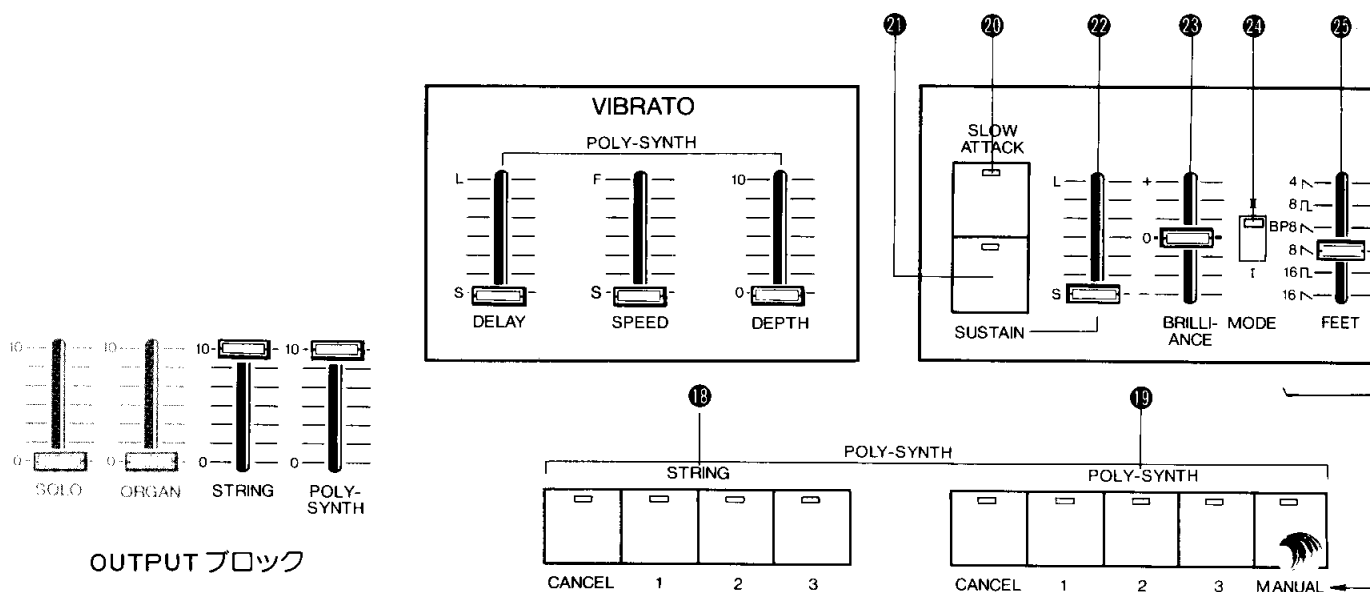
音の出始めの音色を強調してパーカッシブな音をつくります。2nd (2倍音) ⑭, 3rd (3倍音) ⑮及び、5th (5倍音) ⑯のレバーを10方向、下側にすると打鍵時にこれらの倍音が付加され、音の出始めの音色を特徴づけることができます。DECA Y TIME レバー⑬をL側にするほどパーカッシブ効果はゆるやかになります。

● 鍵盤がすでに押されており、パーカッシブ効果が終わったあとでは次に押した音程にはパーカッシブ効果はありません。



**⑰ トーンレバー (16' ~ 1')**

ORGANスイッチでMANUALを選んだときだけこれらのレバーで音色をつくることができます。一般的に楽器の音色は、音程を決める基音に対して倍音がどう含まれているかで決まりますが、トーンレバーは音色を決める倍音を付加していくことにより音色づくりを行うものです。16' から1' になるほどより高次の倍音をコントロールすることができます。



ポリシンパートはプリセットされた音色の **POLY-SYNTH 1, 2** 及び **3** とマニュアル操作により音色のエンベロープをコントロールできる **MANUAL** がありスイッチで選択することができます。

ストリングスにはプリセットされた音色の **STRING 1, 2** 及び **3** がおり同様にスイッチで選べます。

ポリシンパートとストリングスは異なる音色として独自に出力されますが、音源が共通であるためポリシンパートのコントロールパネルは一部共通しています。

### 18 STRING ストリングスセレクトスイッチ

音域の異なるストリングス系の音色が3種類プリセットされています。電源スイッチ ON 時は **STRING 1** に初期設定されます。**CANCEL** を押すとストリングスの音は遮断されます。

- リアパネルの FOOT CONT 部の **STRING** 端子にフットコントローラーを接続するとストリングスの音量だけをコントロールすることができます。これにより、ストリングスサウンドのフェードイン、フェードアウトが可能になり、効果的な演奏ができます。

### 19 POLY-SYNTH ポリシンパートセレクトスイッチ

音色のエンベロープがプリセットされた **POLY-SYNTH 1~3** と、音色のエンベロープをパネル上でセッティングできる **MANUAL** とをパネル上で選択します。電源スイッチ ON 時は **POLY-SYNTH 1** に初期設定され、**CANCEL** を押すとポリシンパートの音は遮断され一切出力されません。

- ストリングスセレクトスイッチ 18, ポリシンパートセレクトスイッチ 19 の **CANCEL** を ON にすると、スプリットボリュームが上っていても音は出力されませ

ん。ボリュームをセットしたまま各パートの出力を一時的に OFF したいときに便利です。

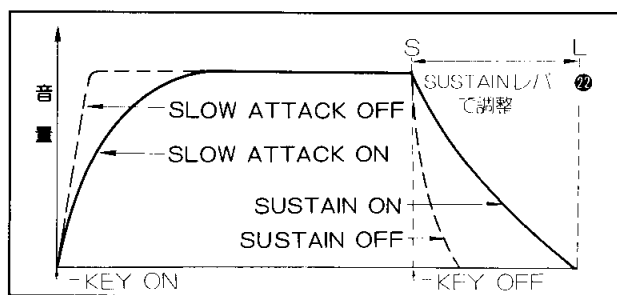
### 20 SLOW ATTACK スローアタックスイッチ

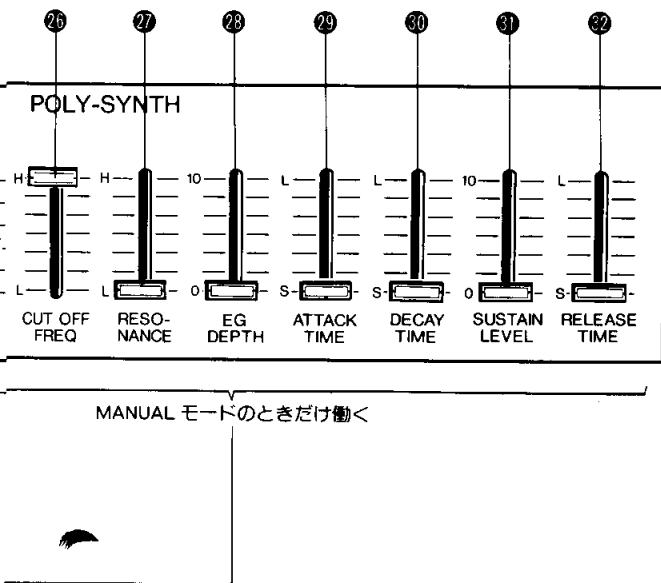
**SLOW ATTACK** スイッチを ON にすると、鍵盤を押してからの音の立ち上がりがゆるやかになります。

- スローアタックは **SUSTAIN** レバー 22 とは関係なく、ゆるやかな立ち上がりが得られます。

### 21, 22 SUSTAIN サスティーンスイッチ, レバー

**SUSTAIN** スイッチ 21 を ON にすると、サスティーン音が得られ、音量は離鍵後ゆるやかに小さくなります。余韻の長さは **SUSTAIN** レバー 22 でコントロールします。

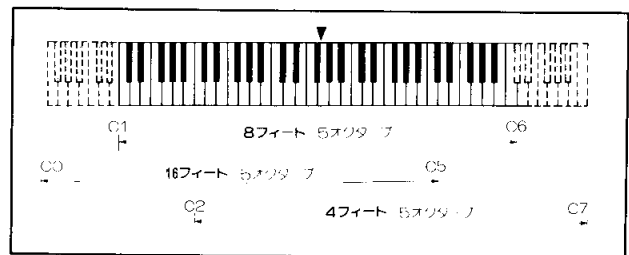




FEET レバー②⑤から右側にあるレバー②⑥～③②は全て、POLY-SYNTHスイッチでMANUALを選んだときだけ動作します。これらのレバーの設定位置によってはMANUALスイッチを押しても音が出ないことがあります。あらかじめ左図のようにセットし、MANUALスイッチをONしてください。

## ②⑤ FEET フィートスイッチ

音源とする音域、波形及びフィルターの形式を選びます。8'のとき標準的な音域C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub>の5オクターブの音域をカバーし、16'にすると1オクターブ音域が下り、反対に4'にすると1オクターブ上ります。

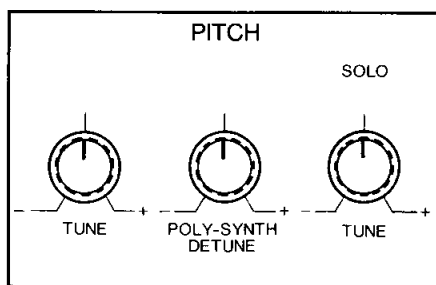


## ②③ BRILLIANCE ブリリアンスレバー

音色を調節します。ストリングス及びポリシンスの全てに対して働き、+側にすると音色が明るくなり、-側にするとソフトな音色になります。

## ②④ MODE モードスイッチ

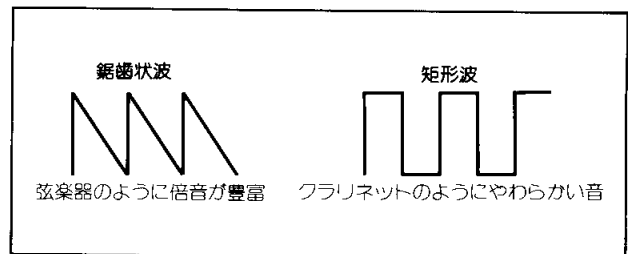
音源を切り換えるスイッチです。ポリシンスパートはピッチの調律系列の異なる2回路の音源があります。モードIIを選ぶと二つの音源を同時に使用します。この結果、PITCHブロックのTUNE及びDETUNEつまみにより変化する2つの音程を発振するため、ハーモニー効果のある音をつくることができます。モードIを選ぶと、TUNEのつまみにだけ依存する音源回路が選ばれます。このため、DETUNEつまみによるハーモニー効果はありません。



● SLOW ATTACK ②⑩, SUSTAIN ②⑪, SUSTAIN レバー②⑫, BRILLIANCE ②⑬レバー及びMODEスイッチ ②⑭は、ストリングス及びポリシンス(プリセット音を含む)に対して同様に働きます。

## ● 波形について

音源の波形は鋸歯状波(ノ)と矩形波(ル)とがあります。鋸歯状波は整数倍の倍音を持つ波形で、弦楽器など一般的な楽器音の音源として使用します。矩形波は奇数倍の倍音を持ち、クラリネットなど閉管楽器の音色とよく似ています。



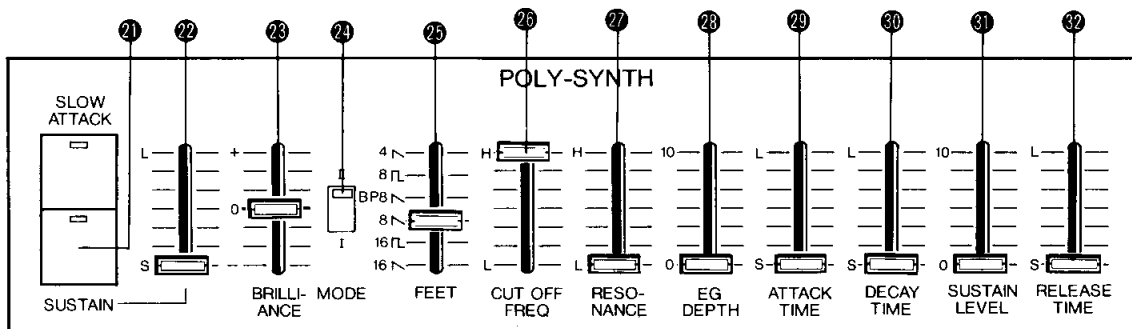
## ②⑥ CUT OFF FREQ カットオフ周波数

マニュアルの基本となる音色をコントロールするレバーです。このレバーをH側からL側に下げるほど高次の倍音がカットされ、音色はまるく、ソフトになります。L側いっぱいになると基音までカットして音が出なくなることがあります。

## ②⑦ RESONANCE レゾナンス

レバーをH側に上げるとカットオフ周波数付近の倍音が強調され、張り、艶のある音色にすることができます。

⑳のEG DEPTHから㉒RELEASE TIMEまでのレバーは音が出始めてから音が消えるまでの音色に時間的な変化を与えるエンベロープジェネレーターのコントロールです。エンベロープジェネレーターの動作を確めるために、CUT OFF FREQレバー㉖を中央位置まで下げてください。



## ㉘ EG DEPTH EG デプス

このレバーは右側の4つのレバーで設定したエンベロープがカットオン周波数を変化させる割合を調節します。このレバーを0から10方向にするほど変化が大きくなります。

鍵盤を押しても、エンベロープのレバーがセットされていないので音色の変化は現われません。このレバーは上側いっぱいにして次に進んでください。

## ㉙ ATTACK TIME アタックタイム

鍵盤を押して音が出はじめてから、音色が最大変化に達するまでの時間を調節するレバーです。レバーをL側に上げるほどゆっくりと立ち上がります。

このことを確めるために、このレバーをL側に上げ、キーを押してみてください。

## ㉚ DECAY TIME ディケイタイム

最大変化から、持続時の音色に落ちつくまでの時間を調節するレバーです。

レバーをL側に上げるほどゆっくり落ちつきます。

ディケイタイムレバーをL側に上げるとアタックのときと反対のプロセスで音が変わります。

## ㉛ SUSTAIN LEVEL サスティーンレベル

音色のATTACK, DECAYの変化が終り、鍵盤を押している間持続するときの音色を調節するレバーです。

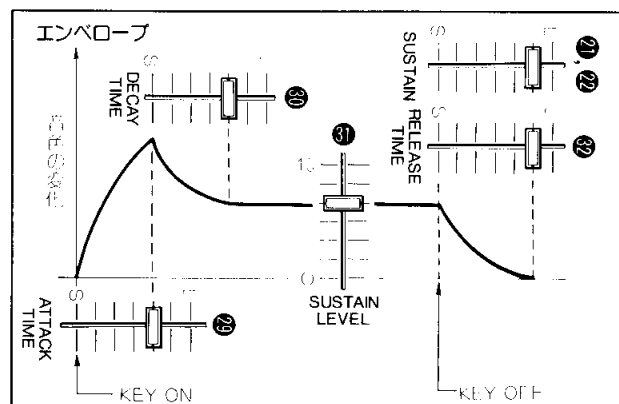
SUSTAIN LEVELのレバーを10側に上げ、キーを押すと、レバーの位置によって音色が変化します。このときの音色の変化は、このレバーを0側にしておき、CUT OFF FREQレバー㉖を上下したときと同じになります。

## ㉜ RELEASE TIME リリースタイム

鍵盤を離してから音が消えるまでの音色の変化する時間を調節するレバーです。

RELEASE TIMEのレバーをL側に上げても、SUSTAINスイッチ㉑がOFFの状態では、鍵盤を離すと音が消えてしまうので思ったような効果は現われません。そこでSUSTAINスイッチ㉑をONにして、SUSTAINレバー㉛をRELEASE TIMEと同じように上げてください。すると、今度は鍵盤を離してからの変化を聞きとることができます。

以上の変化をまとめると下図のようなエンベロープ曲線が得られます。



- すでに鍵盤を押してエンベロープがスタートしているとき、次に押した他の音程ではエンベロープは変化しません。また離鍵によるリリースタイムは全ての鍵盤が離されたとき、最後に離した音程のタイミングで始まります。

ポリシンセ及びストリングスパートにディレイビブラート（音の立ち上がりから少し遅れてビブラートがかかる）をかけることが出来ます。

### 33 DELAY ディレイ

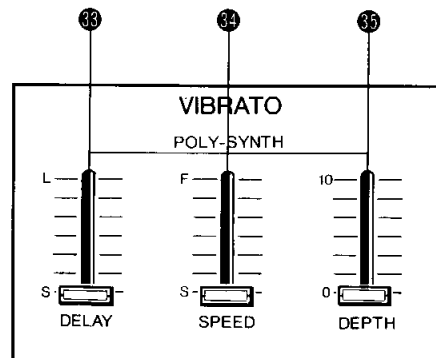
音が出はじめてからビブラートのかかり始めるまでの時間をコントロールします。レバーをL側にするほどビブラートのかかり始めは遅くなります。

### 34 SPEED スピード

ビブラートのスピードをコントロールします。F側にするほど速いビブラートが得られます。

### 35 DEPTH デプス

ビブラートがポリシンセ（ストリングス）音にかかる強さを調節します。



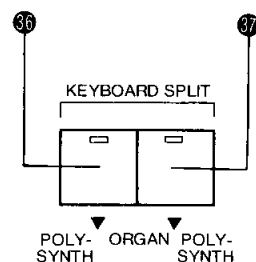
## KEYBOARD SPLIT ブロック

キーボードスプリット機能は鍵盤を中央の▼印の位置から左右分割してオルガン、ポリシンセ(ストリングス)をそれぞれ独立して演奏できる機能です。SK 30は通常の演奏の場合、同時に7音まで発音するポリフォニックタイプのキーボードですが、キーボードスプリット機能を使用すると左側7音、右側7音の合計14音までの演奏ができます。

### 36, 37 KEYBOARD SPLIT

#### キーボードスプリットスイッチ

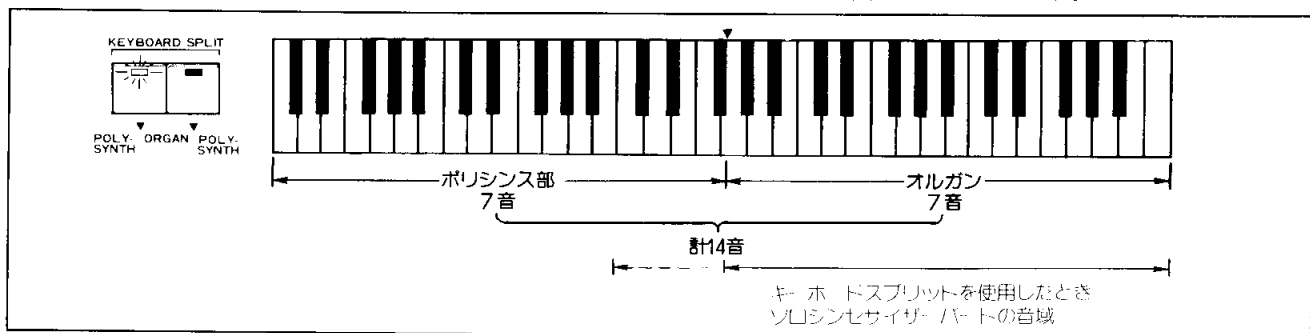
KEYBOARD SPLIT スイッチ 36を押すと、鍵盤の中央の▼印から右側がオルガン、左側がポリシンセ及びストリングに分れ、スイッチ 37を押すと反対に右側がポリシンセ及びストリング、左側がオルガンに分れます。スイッチをもう一度押すと通常のモードに戻ります。

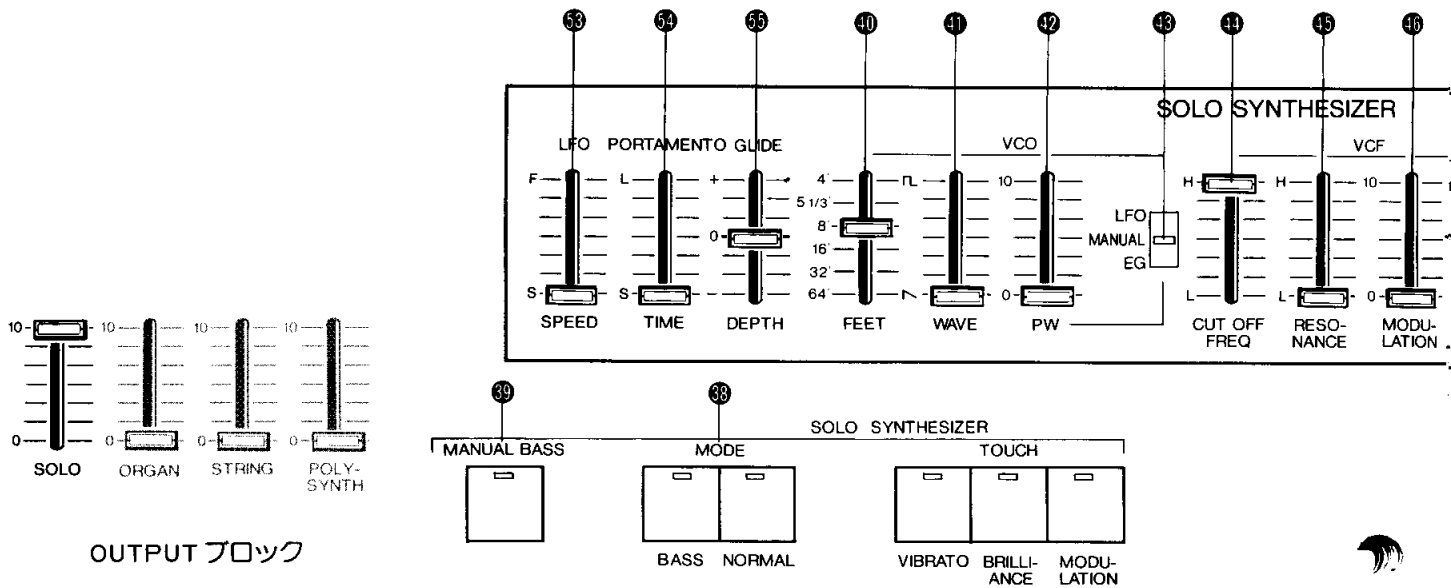


- キーボードスプリットを使用すると、ソロシンセサイザーパートは▼印から右半分、G<sub>3</sub>~C<sub>6</sub>の音域に縮小します。

- キーボードスプリット機能とマニュアルベース機能を同時に使用することはできません。MANUAL BASSスイッチ 39（15P参照）がONのときキーボードスプリットスイッチをONにすると、マニュアルベース機能は解除されます。

### キーボードスプリット





OUTPUT ブロック

ソロシンセサイザーは、音程、音色及び音量のコントロールが、電圧を媒体として行なわれる VCO, VCF 及び VCA により構成されています。ソロシンセサイザーを演奏するには、始めにこれらのブロックを構成するコントロールを操作して音をつくる必要があります。実際に音を出しながら動作を確認するために、各コントロールを上図のようにセッティングしてください。

## 38 MODE モードスイッチ

ソロシンセサイザーパートを演奏する場合、MODE スイッチで **NORMAL** または **BASS** を選びます。

**NORMAL** …… 鍵盤の高音側ソロシンセサイザー発音域  $C_3 \sim C_6$  (3オクターブ) において、単音、高音優先で出力が得られます。

- キーボードスプリットスイッチが押されてスプリット状態のとき、ソロシンセサイザーの発音域はスプリットマーク (中央▼印) から右側の  $G_3 \sim C_6$  になります。

**BASS** …… リアパネルの PEDALS 端子にベースペダルを接続してペダルによる演奏ができます。なお、**BASS** モード時にベースペダルで発音する音程は、ソロシンセサイザーの発音域の  $C_3 \sim C_4$  (1オクターブ) に相当します。

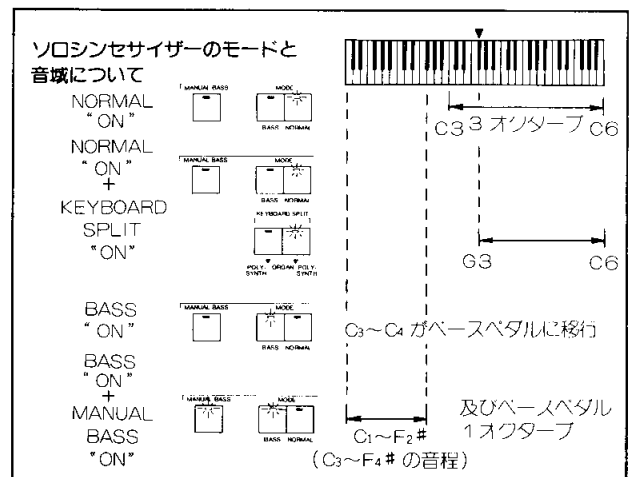
## ● 高音優先について

ソロシンセサイザーパートは高音優先の単音シンセサイザーです。複数のキーを押したとき、最も高い音程の音が出力され、更に高い音程のキーを押すと、音程はそのキーに移行します。ただし、すでに7音分のキーが押されているときは更に高いキーを押しても音程は移行しません。

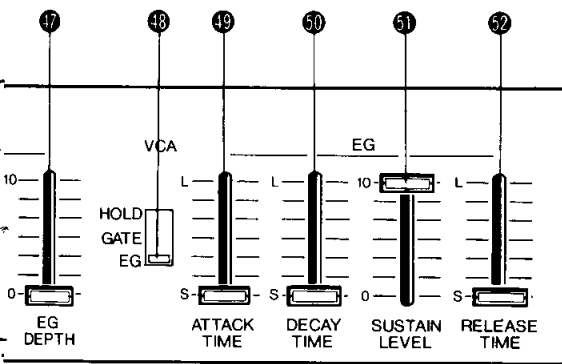
## 39 MANUAL BASS マニュアルベーススイッチ

MODE スイッチ 38 が **BASS** の状態で **MANUAL BASS** スイッチを ON にするとソロシンセサイザーパートは、低音側マニュアルベース音域  $C_1 \sim F_2 \#$  に移行し、このときの音程はソロシンセサイザー発音域  $C_3 \sim F_4 \#$  に相当します。

また、ベースペダルを接続すると、マニュアルベース音域、ベースペダルの両方で演奏でき、このとき両方の鍵盤の高音優先で出力されます。







● **MANUAL BASS** スイッチをONしたとき、鍵盤のマニュアルベース領域はソロシンセサイザー専用のキーボードとなり、オルガン、ポリシンスはこの領域内で演奏できません。

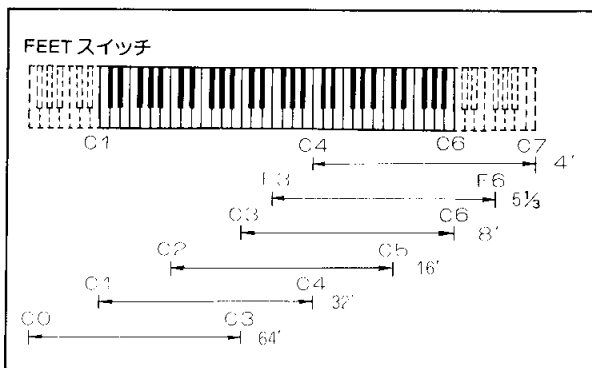
## ■ VCO (Voltage Controlled Oscillator)

オルガンの場合、音色はトーンレバーで倍音を加えていくことによってつくられますが、シンセサイザーの場合は反対に多くの倍音を持つ特殊な波形から、倍音の一部を削りとることにより音色をつくります。

VCO は鍵盤の音程に対応する電圧(CONTROL VOLT と高い、リアーパネルに出力されている)から、多くの倍音を持った音源をつくる(発振する)働きをします。モードスイッチ⑳をノーマルにしてください。

## ④0 FEET フィートスイッチ

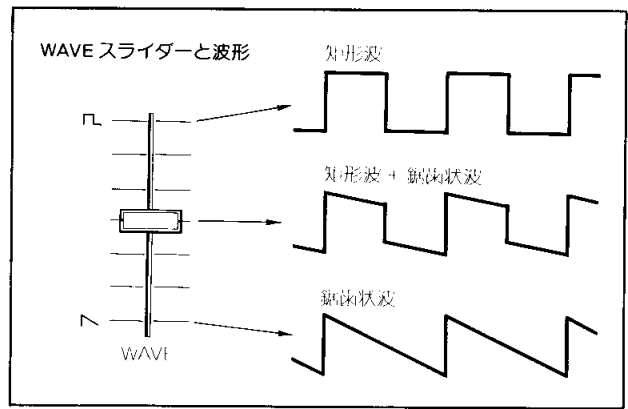
演奏する音域を選びます。8'のとき標準的な音域 C<sub>3</sub> ~ C<sub>6</sub> (NORMAL), C<sub>3</sub> ~ F<sub>4</sub># (BASS) をカバーし、5 1/3'のとき5度、4'のとき1オクターブ上り、反対に、16', 32', 64' とフィートが増えることに1オクターブづつ下がります。



## ④1 WAVE 波形レバー

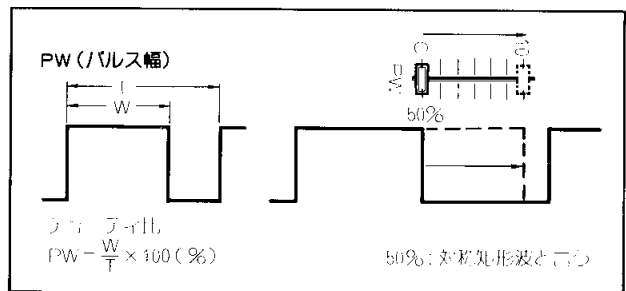
波形を選ぶレバーです。レバーがR側にあるとき、鋸歯状波が出力され、L側にあるとき矩形波が出力されます。レバーが中間にあるときは鋸歯状波と矩形波のミキシングされた波形が出力されます。

このレバーはいまR側にありますが、レバーを動かしながら鍵盤を弾き、音色の変化する様子を確認してください。VCF, VCAは特にコントロールされていないので、いま聴いている音はVCOで発振したそのままの波形による音色です。



## ④2 PW Pulse Width パルス幅レバー

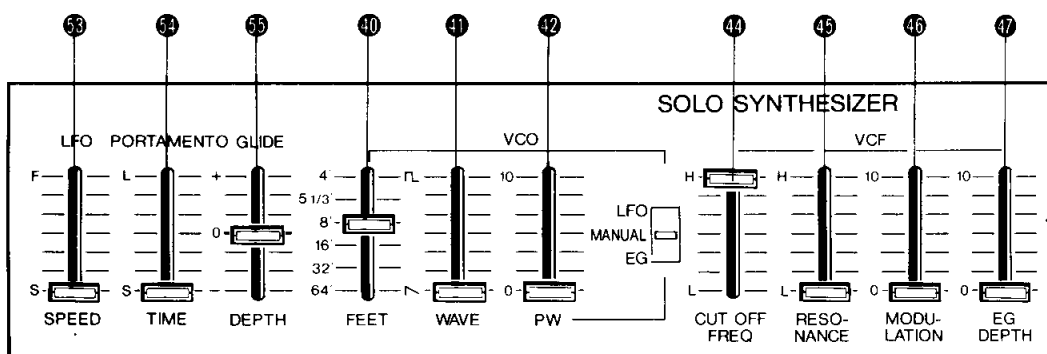
WAVE レバー④1でミキシングされる矩形波のパルス幅を変えることにより音源の音色を特徴づけます。レバーが0(50%)のとき上下のパルス幅の等しい対称矩形波となり、10(85%)側にするほど上下のパルス幅の比が大きくなります。



## ④3 PW パルス幅変調スイッチ

矩形波のパルス幅をLFOまたはEGで変調することができます。スイッチがMANUALのときパルス幅はPWレバー④2で設定した一定の値となり、LFOにするとパルス幅はLFOレバー⑤3で決めたスピードで周期的に変化し、EGにするとパルス幅はエンベロープジェネレーターで設定したエンベロープに従い変化します。LFO及びEGの時の変調の深さはPWレバー④2でコントロールされます。

# SOLO SYNTHESIZER



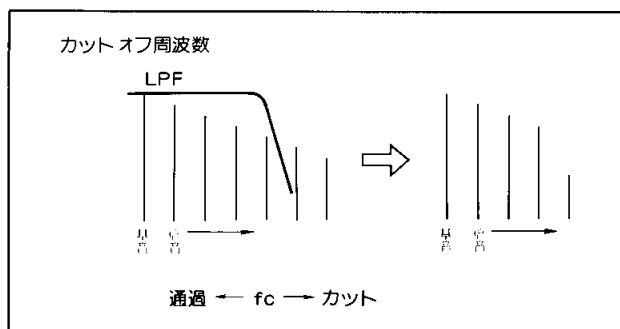
## ■ VCF (Voltage Controlled Filter)

VCO でつくられた波形は VCF に入力されます。VCF はフィルターの作用により波形に含まれる倍音の一部を取り除いたり、一部の倍音を強調して、音源の倍音構成を変え、音色をコントロールします。

### 44 CUT OFF FREQ カットオフ周波数

フィルターの通過する部分とカットする部分との境いめの周波数をカットオフ周波数と言い、このカットオフ周波数より低い倍音成分が VCF を通過します。

**CUT OFF FREQ** レバーを H 側にすると、より高次の倍音が通過するため、音色は明るく、また、硬くなります。反対に、レバーを L 側にするに従い高次の倍音からカットされ、音色はソフトになります。レバーを L 側いっぱいまで下げると、基音までカットされ音が出なくなることがあります。



**CUT OFF FREQ** レバーはシンセサイザーで音づくりをするとき、基本となる音色を決める最も重要なコントロールの一つです。いまこのレバーは H 側にあるため音源波形に含まれる倍音はほとんど通過しています。このレバーを徐々に L 側に下げ、音色の変化する様子を確認してください。つぎに進むときはレバーを中央ぐらいにしてください。

### 45 RESONANCE レゾナンス

フィルターのカットオフ周波数付近の倍音を強調し、音色を特徴づける働きをします。

**RESONANCE** レバーを H 側に上げて、音色の変化する様子を確認してください。つぎに進むときは **CUT OFF FREQ** レバー同様、中央付近にセットしてください。

### 46 MODULATION モジュレーション

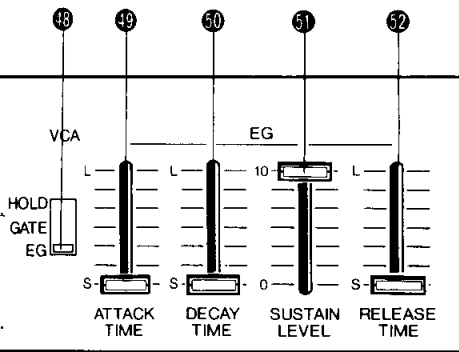
カットオフ周波数を LFO で変調し、周期的に音色を変化させる働きをします。MODULATION レバーを 10 側に上げるほどより大きな変化が得られます。

変化するスピードは LFO レバー 33 により決まります。MODULATION レバーを上げ、LFO レバーをコントロールして動作を確認してください。この効果をふつうワウ・ワウと言っています。MODULATION レバーは 0 に戻して次に進みます。

### 47 EG DEPTH EG デプス

鍵盤を押して音が出はじめてから、鍵盤を離して音が消えるまでの音色に変化をつける働きをします。変化する様子は EG ブロックのレバーのセッティングにより決まります。

いま、EG のセッティングは SUSTAIN LEVEL レバーだけが上った状態です。このため、EG DEPTH を 10 方向に上げるに従い、カットオフ周波数が高くなり、音色の変化が大きくなるはずですが、EG DEPTH を 10 側いっぱいにしたときの音色は、CUT OFF FREQ レバー 44 を H 側いっぱいにしたときと同じになります。つぎに、VCA 及び EG のコントロールについて説明します。いったん、EG DEPTH レバーは 0 に戻し、EG の働きを理解したあとで EG DEPTH レバーを調節してください。



## ■ EG (Envelope Generator)

エンベロープジェネレーターは鍵盤を押したとき、離れたときを示すトリガー信号により起動します。EGブロックで作られたエンベロープは、VCAスイッチ、VCFのEG DEPTHレバー及びVCOブロックのハルス変調スイッチ部に対して加えられ、それぞれのブロックに時間的な変化を与えます。

### 49 ATTACK TIME アタックタイム

鍵盤を押した瞬間から、最大変化になるまでの時間を調節します。L方向にするほどゆるやかに立ち上がります。

### 50 DECAY TIME ディケイタイム

最大変化から、減衰して SUSTAIN LEVELレバー⑤で設定した状態になるまでの時間を調節します。L方向にするほどゆるやかに減衰します。

● SUSTAIN LEVELレバー⑤が10側いっぱいになっている場合、DECAY TIMEによる効果は現われません。

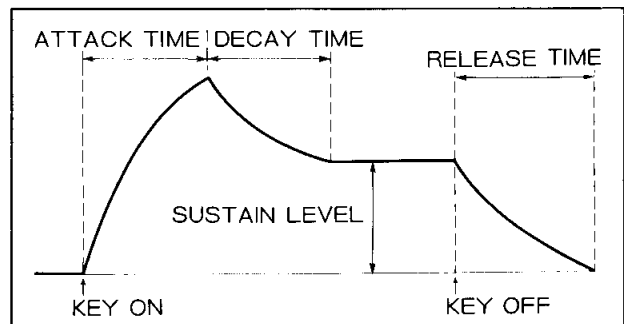
### 51 SUSTAIN LEVEL サスティーンレベル

ATTACK, DECAY TIMEによる変化が終わり、鍵盤を押している間だけ持続する安定した状態のレベルを調節します。10方向にスライドするほど SUSTAIN LEVEL (持続レベル) は大きくなります。

### 52 RELEASE TIME リリースタイム

鍵盤を離してから音が消えるまでの時間、余韻の長さを調節します。L方向にするほどゆるやかに変化します。

EGの四つのコントロールを ADSR と言います。実際に ADSR をコントロールして音量の変化する様子を確かめてください。ADSRの各レバーのコントロールによって下図の様子変化が現われます。この変化をエンベロープカーブと言います。



## ■ VCA (Voltage Controlled Amplifier)

一般的に楽器などの音は、音量も音色も、音が出始めてから消えるまで一定したものではなく、さまざまに変化しています。こうした時間的な変化を電氣的につくる働きをするのがエンベロープジェネレーター、EGです。

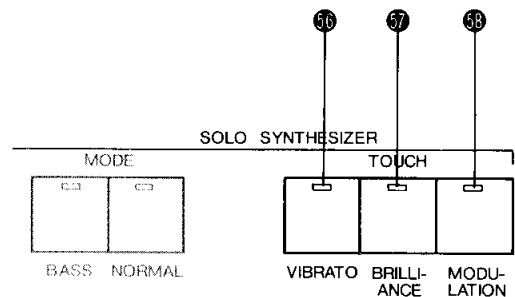
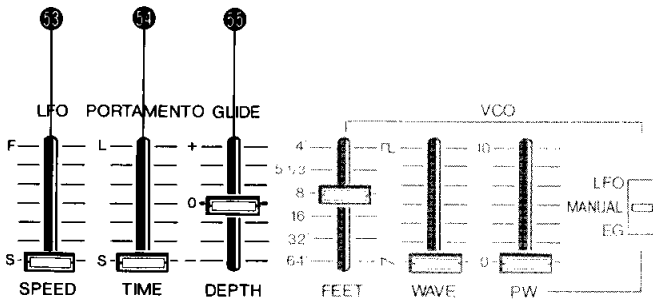
VCFで音色をコントロールされた音の信号はVCAに加わります。VCAは加える電圧値の大小で増幅度が変わるアンプです。この電圧としてEGでセッティングしたエンベロープ電圧を使用することにより、音量に時間的な変化をつけるのがVCAの働きです。

### 48 VCA スイッチ

VCAに加えるコントロール電圧を切り換えるスイッチです。このスイッチを HOLD にすると鍵盤の ON/OFFにかかわらず音が出ます。GATEにするとVCAの制御電圧として鍵盤の ON/OFF 信号、トリガーが加わり、音は鍵盤を押している間一定のレベルで出力されます。スイッチを EG にするとVCAはエンベロープジェネレーターの ADSR レバーのセッティングに従い音を出力します。

VCA スイッチはいま EG になっており、EG の SUSTAIN LEVEL レバー⑤が10まで上っているため、音は鍵盤の ON/OFF に従い出力されます。この状態はVCA スイッチを GATE にした場合と同じです。EGに戻して次に進みます。

## その他のコントロール



### 53 LFO 低周波発振器

LFOはVCO, VCFブロックを変調し、音色に周期的な変化を与える働きをします。LFOレバーをF側にするとスピードは速くなります。

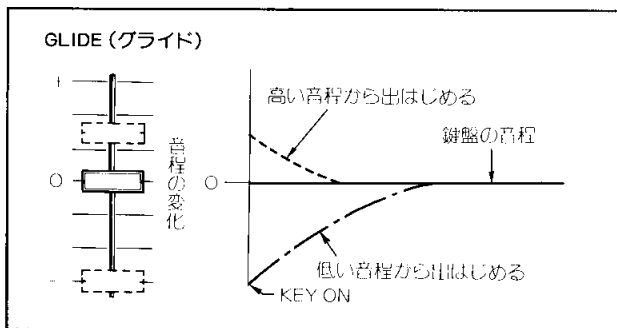
### 54 PORTAMENTO ポルタメント

ポルタメントとは、音程がはじめの音程から次の音程になめらかに移る効果です。このレバーはその移動の速さを調節します。レバーをL側にするとゆるやかに音程が移ります。

- リアパネルにフットスイッチ（オプション）を接続するとポルタメントのON/OFFをコントロールすることができます。このときパネルのポルタメントレバーはL側にセットしておきます。

### 55 GLIDE グライド

グライドとは音の出はじめの音程に変化をつけることを言います。GLIDEレバーが中央（クリックストップ位置）にあるとき音程は変化せず、+側にすると高い音程から、-側にすると低い音程から音が出はじめます。



### TOUCH タッチコントロールスイッチ

タッチコントロールスイッチは、鍵盤を押したときの押す強さによって音色などを微妙にコントロールするエフェクターです。スイッチを押すとそれぞれの効果が現われます。

### 56 VIBRATO ビブラート

タッチの強さによりビブラートがかかります。ビブラートの速さはLFOレバー53により決まります。

### 57 BRILLIANCE ブリリアンス

音色が明るくなります。VCFのカットオフ周波数を少し高くすることにより得られる効果です。

### 58 MODULATION モジュレーション

ワウ・ワウ効果が生まれます。VCFブロックのMODULATIONレバーを上げる操作と同じ効果です。

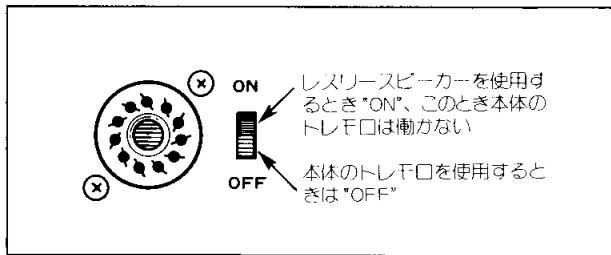
- ブリリアンス、モジュレーションの効果はVCFブロックのカットオフ周波数に対して働きます。このため、CUT OFF FRFQレバー14, RESONANCEレバー15のセッティングの状態によってタッチコントロールの効果の現われ方が異なります。CUT OFF FRFQレバーをH側にかなり上げた状態では、タッチコントロール効果はあまり目立たなくなります。

トレモロとアンサンブル効果はオルガン部およびポリシンシス/ストリングパートのそれぞれに独立してかけることができます。このとき、SK30だけを使用した演奏ではアンサンブル優先になっており、トレモロとアンサンブルを同時に使用することはできません。トレモロ及びアンサンブル効果はリアパネルの MIXED 出力にのみかかり、スプリット出力(POLY-SYNTH, ORGAN, SOLO SYNTHESIZER)にはかかりません。

## ■ TREMOLO トレモロ

トレモロ効果、及びリアパネルのEXT TONECABINETに接続したレスリースピーカーをコントロールするブロックです。

レスリースピーカーを使用せずSK30でトレモロをかけるときはリアパネルのEXT TONECABINETスイッチをOFFにしてください。このスイッチをONにすると、SK30内部ではトレモロはかからず、トレモロの各コントロールはレスリースピーカーのコントロールだけを行います。



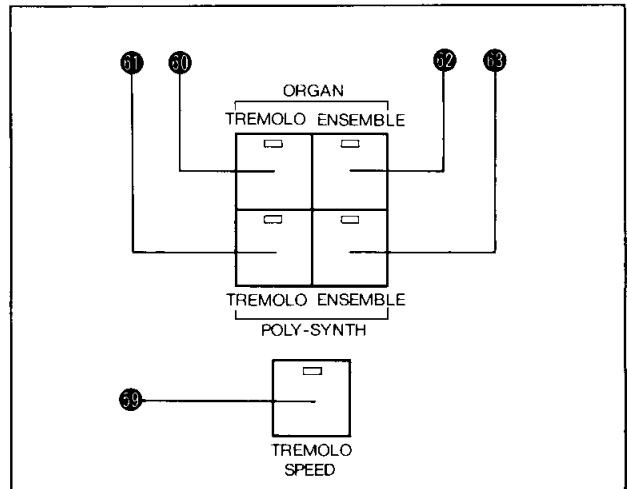
## ⑤9 SPEED スピードスイッチ

トレモロのスピードを電子的に変化させるスイッチです。スイッチを押しインジケータが点灯すると、スピードは徐々に速くなり、インジケータが点灯しているときスイッチを押すとスピードは徐々にゆるやかになります。

- EXT TONECABINET 端子に接続したレスリースピーカーの回転スピードのファースト/スローのリモートコントロールができます。

⑥0 ORGAN, ⑥1 POLY-SYNTH トレモロスイッチ  
スイッチを押し、インジケータが点灯するとトレモロがかかります。もう一度押すと解除されます。

- アンサンブルスイッチ⑥2または⑥3がONになっているとトレモロスイッチをONしても、トレモロではなくアンサンブル効果がかかります。
- リアパネルのEXT TONECABINETをONにしてEXT TONECABINET端子にレスリースピーカーを接続したとき、レスリースピーカーのON/OFFはトレモロスイッチの表示どおり制御されます。



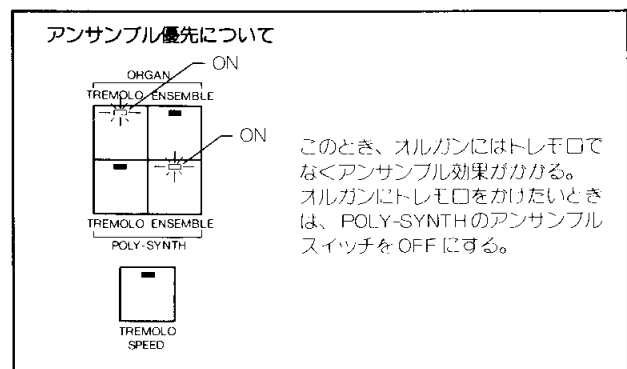
## ■ ENSEMBLE アンサンブル

アンサンブル効果をかけると電子ディレイにより、重厚なサウンドが得られます。

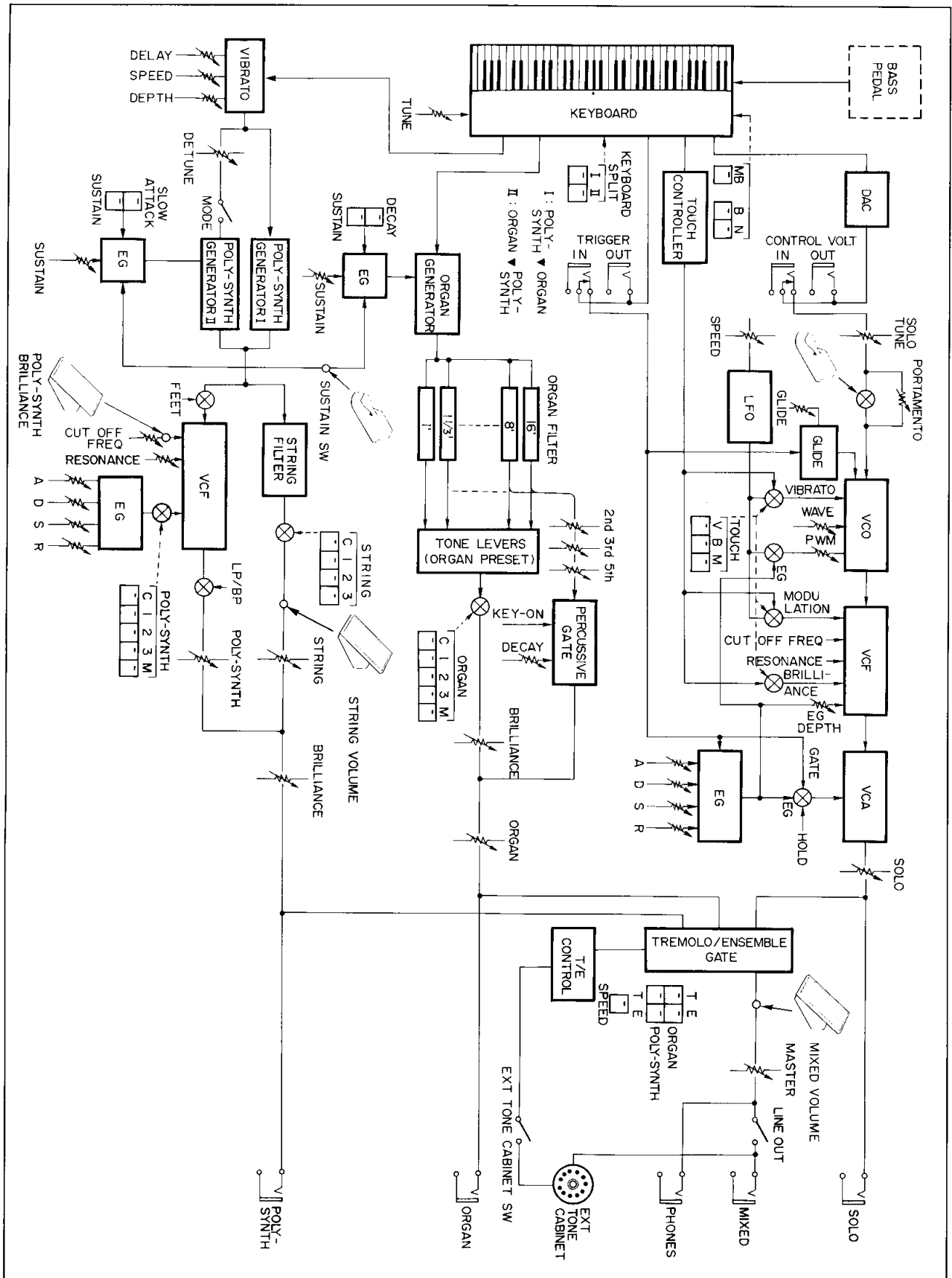
## ⑥2 ORGAN ⑥3 POLY-SYNTH アンサンブルスイッチ

スイッチを押しインジケータが点灯すると、アンサンブル効果がかかります。もう一度押すと解除されます。

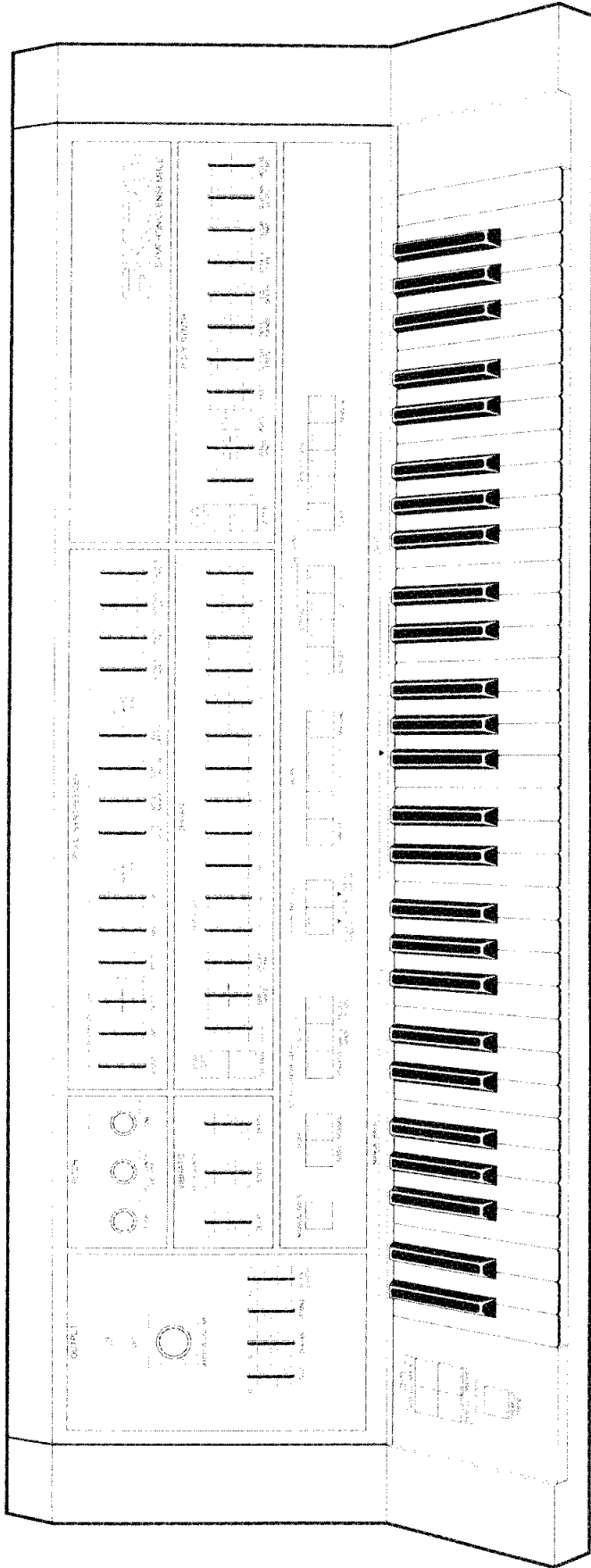
- ENSEMBLE スイッチ⑥2または⑥3をONにすると、すでにONになっているTREMOLOスイッチ⑥1または⑥0はOFFになり解除されます。



# ブロックダイアグラム



# SOUND MEMO



DATE: / /





# 参考仕様

**鍵盤** 61鍵、C<sub>1</sub>～C<sub>6</sub> 5オクターブ

**OUTPUT 部**  
 LINE OUT ..... ON,OFF; MIXED 及び  
 EXT TONECABINET 出力 OFF  
 ボリューム.....MASTER VOLUME  
 SOLO / ORGAN / STRING /  
 POLY-SYNTH ボリューム

**PITCH 部** .....  
 TUNE : 438 ~ 450Hz  
 POLY-SYNTH DETUNE :  $\pm 20$  セント  
 SOLO TUNE : -500 ~ +700 セント

**SOLO SYNTHESIZER 部 (単音、高音優先)**  
 LFO ..... SPEED : 0.1 ~ 100Hz  
 PORTAMENTO ..... 3sec max. (C<sub>1</sub> → C<sub>6</sub>)  
 GLIDE ..... 70msec max. (DEPTH +, -)  
 VCO ブロック  
 FEET ..... 4', 5', 3', 8', 16', 32', 64'  
 WAVE .....  $\Delta$ ,  $\nabla$ , レバーでミキシング可能  
 PW ..... 50 ~ 85%, LFO, MANUAL, EG 切り換え  
 VCF ブロック  
 CUT OFF FREQ ..... レンジ : 10 oct  
 RESONANCE ..... Q : 0.5 ~ 10  
 MODULATION .....  $\pm 30\%$  max.  
 EG DEPTH ..... 0 ~ 10 oct  
 VCA ブロック ..... HOLD, GATE, EG 切り換え  
 EG (ENVELOPE GENERATOR)  
 ATTACK TIME ..... 0.003 ~ 3 sec.  
 DECAY TIME ..... 0.03 ~ 30 sec.  
 SUSTAIN LEVEL ..... 0 ~ 10  
 RELEASE TIME ..... 0.03 ~ 30 sec.  
 TOUCH  
 VIBRATO .....  $\pm 120$  セント ; 8, A<sub>1</sub> ON 時  
 BRILLIANCE .....  $\pm 7$  ~  $10$  oct  
 MODULATION .....  $\pm 30$  oct  
 MODE ..... NORMAL, BASS  
 MANUAL BASS

**VIBRATO 部 (POLY-SYNTH & STRING)**  
 DELAY ..... 0 ~ 3.2 sec.  
 SPEED ..... 5 ~ 7 Hz  
 DEPTH .....  $\pm 30$  セント

**ORGAN 部**  
 オルガンセレクター ..... CANCEL, ORGAN 1, ORGAN 2, ORGAN 3,  
 MANUAL  
 DECAY ..... OFF, ON (0.03 ~ 1.6 sec) | SUSTAIN  
 SUSTAIN ..... OFF, ON (0.03 ~ 1.6 sec) | レバー  
 BRILLIANCE .....  $\pm 7$  dB / 5 kHz (正弦波) | S-L  
 PERCUSSIVE ..... 2nd, 3rd, 5th レバー  
 DECAY TIME ..... 0.8 sec. / max.  
 トーンレバー ..... 16', 8', 5 $\frac{1}{3}$ ', 4', 2 $\frac{2}{3}$ ', 2', 1 $\frac{3}{8}$ ', 1 $\frac{1}{3}$ ', 1'

**POLY-SYNTH 部**  
 スtringセレクター ..... CANCEL, STRING 1, STRING 2,  
 STRING 3  
 ポリシンセセレクター ..... CANCEL, POLY-SYNTH 1, POLY-SYNTH 2,  
 POLY-SYNTH 3, MANUAL

SLOW ATTACK ..... OFF : 3 msec. ON : 80 msec.  
 SUSTAIN ..... SUSTAIN スイッチ : ON, OFF  
 SUSTAIN レバー : 0.03 ~ 1.6 sec.  
 BRILLIANCE .....  $\pm 12$  dB / 5 kHz (正弦波)  
 MODE ..... I : 音源 1 系列, II : 音源 1, 2 系列  
 FEET ..... 4', 8', 16', BP 8', 8', 16', 16'  
 CUT OFF FREQ ..... 10 oct  
 RESONANCE ..... Q : 0.5 ~ 10  
 EG DEPTH ..... 10 oct  
 ATTACK TIME ..... 0.003 ~ 3 sec.  
 DECAY TIME ..... 0.03 ~ 30 sec.  
 SUSTAIN LEVEL ..... 0 ~ ~~10~~ 10  
 RELEASE TIME ..... 0.03 ~ 30 sec.

**TREMOLO/ENSEMBLE 部 (ENSEMBLE 優先)**  
 TREMOLO ..... ORGAN, POLY-SYNTH スイッチ  
 SPEED ..... OFF ; 0.64Hz, ON ; 6.4 Hz  
 ENSEMBLE ..... ORGAN, POLY-SYNTH スイッチ

**KEYBOARD SPLIT 部**  
 KEYBOARD SPLIT ..... POLY-SYNTH  $\nabla$  ORGAN : ON, OFF  
 ORGAN  $\nabla$  POLY-SYNTH : ON, OFF  
 中央  $\nabla$  印 F キー ~ G 間で分離

**REAR PANEL**  
 OUTPUT ..... MIXED : 600 $\Omega$ , -10 dBm  
 ORGAN, POLY-SYNTH, SOLO  
 FOOT CONT ..... フットコントローラーを接続  
 MIXED VOLUME, STRING VOLUME,  
 POLY-SYNTH BRILLIANCE  
 FOOT SW ..... フットスイッチを接続  
 SUSTAIN (ORGAN, POLY-SYNTH)  
 PORTAMENTO (SOLO SYNTHESIZER)  
 CONTROL VOLT ..... IN : 0.25 ~ 2V  
 OUT : 0.19 ~ 3V  
 TRIGGER ..... IN : POSITIVE ON E<sub>+</sub> +15V  
 OUT : POSITIVE ON E<sub>-</sub> +15V  
 KEY CODE ..... TTL レベル、キーコードデータを出力  
 PEDALS ..... ペースペダルを接続  
 EXT TONECABINET ..... ON ; LESLIE, OFF ; 電子トレモロ  
 11 pin ソケット : LESLIE  $\neq$  415, 715,  
 815 相当品接続可能

発音数 ..... 7音 BASS : OFF  
 7音 + 1音 BASS : ON  
 7音 + 7音 KEYBOARD SPLIT : ON  
 7音 + 7音 + 1音 BASS, KEYBOARD SPLIT : ON

**その他**  
 電源電圧 ..... 100V, 50/60Hz  
 定格消費電力 ..... 45W  
 寸法 ..... 1089(幅) × 178(高) × 474(奥行) mm  
 重量 ..... 22 kg  
 仕上げ ..... ビックホルトローズ木目仕様  
 付属品 ..... FC3A フットコントローラー  
 別売品 ..... FC4 フットスイッチ  
 BP2 ペースペダル

※仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

# サービスについて

## ●保証

SK30の保証期間は、保証書によりご購入から1カ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。) また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

## ●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ年月日、販売店名などが必ず記入されている事を必ずご確認ください。無記入の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

## ●保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

## ●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合は、お求めになられた販売店あるいは、日本楽器支店の電音サービス係までご持参頂きますと技術者が修理、調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。お求めの販売店から遠方に移転される場合は、事前に弊社支店までご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申しあげますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

## ●保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。

そのほかご不明の点などございましたら、下記ヤマハサービス網までお問い合わせください。

## ●サービス網

- |        |         |                 |                                   |
|--------|---------|-----------------|-----------------------------------|
| ●東京支店  | 電音サービス係 | ☎(03) 572-3111  | 東京都中央区銀座7-9-18パールビル内              |
| ●横浜支店  | 電音サービス係 | ☎(045) 212-4852 | 横浜市中区本町6-61-1                     |
| ●千葉支店  | 電音サービス係 | ☎(0472) 47-6611 | 千葉市千葉港2-1千葉中央コミュニティセンター内          |
| ●関東支店  | 電音サービス係 | ☎(0273) 27-3366 | 群馬県高崎市歌川町8番地/高崎センター内              |
| ●大阪支店  | 電音サービス係 | ☎(06) 877-5151  | 大阪府吹田市新芦屋下1-16                    |
| ●神戸支店  | 電音サービス係 | ☎(078) 232-1111 | 神戸市中央区浜辺通6丁目1-36                  |
| ●四国支店  | 電音サービス係 | ☎(0878) 33-2233 | 高松市西宝町2丁目6-44                     |
| ●名古屋支店 | 電音サービス係 | ☎(052) 231-2432 | 名古屋市中区錦1-18-28                    |
| ●北陸支店  | 電音サービス係 | ☎(0762) 43-5341 | 石川県金沢市泉本町7-7                      |
| ●九州支店  | 電音サービス係 | ☎(092) 472-2151 | 福岡市博多区博多駅前2-11-4                  |
| ●北海道支店 | 電音サービス係 | ☎(011) 512-6111 | 札幌市中央区南10条西1丁目ヤマハセンター内            |
| ●仙台支店  | 電音サービス係 | ☎(0222) 95-6111 | 仙台市原町南目薬師堂北2-1                    |
| ●広島支店  | 電音サービス係 | ☎(08287) 4-3787 | 広島市安佐南区祇園町西原2205-3                |
| ●浜松支店  | 電音サービス係 | ☎(0534) 56-9211 | 浜松市東伊場2丁目14-1 エレクトーンステレオサービスセンター内 |

## 日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. (0534)65-1111	神戸店	〒650 神戸市生田区元町通2-188 TEL. (078)321-1191
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL. (03) 572-3111	四国支店	〒760 高松市西宝町2丁目6-44 TEL. (0878)33-2233
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL. (03) 572-3131	四国店	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL. (0878)51-7777
渋谷店	〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7 TEL. (03) 476-5441	名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. (052)201-5141
池袋店	〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL. (03) 981-5271	北陸支店	〒921 金沢市泉本町7-7 TEL. (0762)43-6111
池袋東ショップ	〒170 東京都豊島区東池袋1-30-1/ フランスウィックススポーツガーデン内 TEL. (03) 983-9914	九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. (092)472-2151
横浜支店	〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL. (045)212-3111	福岡店	〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL. (092)721-7621
横浜店	〒220 横浜西区南幸2-15-13 TEL. (045)311-1201	小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL. (093)531-4331
千葉支店	〒280 千葉県千葉港2-1/千葉コミュニティセンター内 TEL. (0472)47-6611	北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター TEL. (011)512-6111
関東支店	〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL. (0273)27-3366	仙台支店	〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL. (0222)95-6111
大阪支店	〒564 吹田市新芦屋下1-16 TEL. (06) 877-5151	仙台店	〒980 仙台市一番町2-6-5 TEL. (0222)27-8511
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL. (06) 211-8331	広島支店	〒730 広島市紙屋町1-1-18 TEL. (0822)48-4511
梅田店	〒530 大阪市北区梅田1-3-1/大阪駅前第1ビル内 TEL. (06) 345-4731	浜松支店	〒430 浜松市田町32 TEL. (0534)54-4116
神戸支店	〒651 神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36 TEL. (078)232-1111	浜松店	〒430 浜松市鍛冶町122 TEL. (0534)54-4111

